東京都江戸東京博物館研究報告　第14号　2008年３月
Journal of Edo-Tokyo Studies, NO.14, P.168-252, March, 2008

【資料紹介】

「安政二卯年　年番取扱覚」

松尾　美恵子[*1]
小宮山　敏和[*2]

ここに紹介する「安政二卯年　年番取扱覚」（資料番号０５０００２８２）は、将軍の側近く仕える旗本蜷川相模守親賓が、安政二年（一八五五）から三年にかけて、職務の備忘のために書き留めたものである。体裁は縦一八・五×横一二・七cmの冊子で丁数一一〇丁からなる。

筆者の親賓が生まれた蜷川家は、室町幕府政所代を勤めた中世以来の系譜をもつ名家で、江戸時代には二家が旗本になっていた。このうち親賓の家は、祖父の親文が家慶付の御側御用取次となり、父の親常は大奥を管理する御留守居を勤めた。親賓自身は小納戸に登用され、家定付の小性から小性頭取をへて、嘉永六年（一八五三）に小性組番頭格御用取次見習となり、その後御用取次になっている。父祖の代より将軍側近として頭角をあらわした旗本家であった。

さて蜷川親賓は、「安政二卯年　年番取扱覚」を執筆した当時、小性組番頭格御用取次見習であった。この役職は、御側御用取次の見習として御側御用取次と同様の仕事をしていたが、老中など表の諸役人の取次はおこなわず奥向き担当の御用取次であった。「安政二卯年　年番取扱覚」の主な内容は、将軍の御手元金である御小納戸入用や物品の出納、将軍周辺の人々への手当てや褒美の出入りなどである。よって本史料は、蜷川という奥向き役人からみた将軍の経済生活の一端が明らかとなる、たいへん貴重なものであるといえよう。詳しくは本号掲載の論考（松尾美恵子「将軍家奥向きの経済―御用取次見習の記録から―」）を参照されたい。

凡例

一　この史料は、東京都江戸東京博物館所蔵の「安政二卯年　年番取扱覚」（資料番号０５０００２８２）を翻刻したものである。この史料の基本的性格については、本号松尾美恵子報告を参照されたい。

一　翻刻にあたり、原本の様式を残すようにつとめたが、編集の都合により、原本の体裁を損なわない程度に、つぎのようにした。

*1 学習院女子大学教授
*2 学習院中等科非常勤講師・徳川林政史研究所研究生

1 文中に適宜、読点（、）および並列点（・）を加えた。
2 漢字は当用漢字・常用漢字にあるものは、原則としてこれを用い、ないものは正字を用いた。
3 宛字・誤字・衍字はそのまま表記して、右傍に（マヽ）を付した。正しい字がわかる場合には、右傍に付した。
4 変体仮名は原則として現行の表記にあらためた。ただし、助詞の「え」「て」「も」「は」などは、それぞれ小文字の「江」、「而」、「茂」、「者」などの漢字で表記した。
5 「より」の合字は「より」と表記した。
6 朱書の場合は、「＊」で該当する文言の上下を囲む事で示した。
7 欠損、または判読不明の文字は、■■（字数分）で示した。
8 踊り字は、漢字は「々」、平仮名は「ゝ」、片仮名は「ヽ」を用いた。
9 原本の字数が多く、一行に収まらない行の場合には、適宜改行した。
10 原本は罫紙に書かれているが、本稿では罫紙を省略した。
11 罫紙内に書かれた文字は、上二文字分空けて三文字目から書くようにし、上二文字分には頭注や記号などを記した。
12 罫紙上に書かれた頭注などは、「▲1」などのように記号を頭注の場所に示し、内容はその日の記述の最後に記載した。また、「○」などの記号は、原本のままの場所に付した。ただし、記号中の文字については省略した部分もある。

一 なお、この史料の基本的な登場人物については、利用の便を考慮し、巻末に「安政二卯年 年番取扱覚」登場人物一覧を掲載した。あわせて参照いただきたい。

一 編集には、松尾美恵子（学習院女子大学教授）、小宮山敏和（学習院中等科非常勤講師／徳川林政史研究所研究生）があたり、田原昇（江戸東京博物館都市歴史研究室）の協力を得た。

資料番号05000282

安政二卯年　年番取扱覚

安政二卯年正月

年番奥之番　御金　岡三四郎
御召物　井関次郎右衛門

吹上
御定金　千二百両
米　三百俵

右者吹上懸りより断差出、御勝懸（手脱カ）り若年寄江差出ス
年番取扱無之
金千両　美賀君御下向ニ付御支度金立替被遊、御納戸より出候事、伊勢守殿江主水正より断
金二百両　御暇ニ相成候女中御手当被下、但当年より御納戸より出ル、丹後守殿取扱

○正月十一日

大判　拾枚
小判　六千両
銀　三百枚
右者御小納戸御用
右御金断但馬守殿江差出

扣
大判　拾枚
小判　六千両
銀　三百枚

○正月十一日　奥之番

右両通共奥之番銀（鉄カ）三郎差出見廻し之
上一通但馬守江差出、扣者留置
但岡三四郎可差出候処、引ニ付鉄三郎より差出候

○正月十六日

御納戸より御金請取候旨、三四郎申聞候

○正月廿日

見出シ
長崎調進物御断申上候書付　元懸　奥之番
御小納戸定例御用之外、御小納戸別為御用年々反物弐百八拾反宛調進之積、尤唐紅毛不及御誂、商売内ニ持渡候品ニ而、当年差出之内調進後レ之分者、当年限棄捐ニ相成候積、寛政二戌年相極、依之当年御用之分者左之通調進御座候様、仕度奉存候

弐百八拾反
内
百四拾反者宜品之積
但
桟留　是者壱反者壱反之積
呉羅　是者壱反ニ而弐反之積
羅背板　是者壱反ニ而四反之積
此二品者、壱反ニ而嵩多之品故、
右之積ヲ以数ニ合候積
へるへとわん　同断
百四拾反者次之品之積
海黄　是者壱反者壱反之積
巾壱尺五寸余、鯨尺ニ而五丈四尺有之
白縮緬　候得者、壱反ニ而二反之積、丈巾共
右より不足候得者、壱反者壱反之積
弁柄　是者壱反者壱反之積
絹紬　同断
羅　同断
紋紗　同断
右之内ニ而三拾五反、或者七拾反ツ、、同品
相揃調進有之候得、(者脱カ)別而御用弁宜御
座候得共、持渡多少有之、相揃兼候
者、如何様ニ茂色品取交、追々成共当年
中ニ調進御座候様、尤別御用ニ御座候間、
聊之地村等御座候分者不苦候、右之通
長崎奉行江御断被仰渡可被下候、以上
元掛
正月　奥之番
見出シ
長崎調進物御断申上候書付　奥之番
一上金巾　三拾三反
右者当卯年御用調進御座候様仕度奉
存候、右金巾払底ニ御座得(候脱カ)者、中金巾
ニ而反数合候積、若当年差出反数之
内調進後レ之分者、当年限棄捐ニ
相成候積、長崎奉行江被仰渡可被下候、以上
正月　奥之番
右長崎奉行江断書付　二通
奥之番年番井関次郎右衛門差出ス
見廻之上明日丹後守殿より可達積り

○正月廿一日

右書面二通　長崎奉行明ニ付、御勘定奉行
石河土佐守江丹後守殿より被達候
見出シ
御納戸組頭中

別取扱反物当卯年分御誂
一誂織常巾縮緬　百五十疋
一同丹後嶋　十五疋
一並織八丈嶋　五十疋
一横麻　二十疋
一龍門　二百疋
右之通当卯年十月迄皆済
上納之事
正月　朝比奈甲斐守
内藤宮内少輔
右書面甲斐守より差出、見廻之上同人江下ル
但右者元懸りより直ニ断候事

○正月廿五日　＊左之通書面岡三四郎より差出＊
金百五拾両
右者京都江被遣候ニ付、臨時為御用請取
申度奉存候
正月　奥之番
＊右書面見廻之上但馬守殿江出ス
但肝煎方江者不留＊

㊀＊折懸ケ＊本寿院殿江被下御金御支度伺書　奥之番
高五百両之内
金弐百両　本寿院殿
右者年々被下置候ニ付、御仕度之儀奉伺候
正月　奥之番

㊁＊折懸ケ＊御内々御備ニ相成候御金御仕度伺書　奥之番
金弐百両
右者年々
広大院様　御霊前江御内々　御備ニ相成
候旨、去ル午年被　仰出候ニ付、御仕度之儀奉伺候
正月　奥之番

㊂＊折懸ケ＊精姫君様江被　進候御金伺書　奥之番
金五拾両
右者　精姫君様より妙勝定院宮江被為
進候ニ付、去ル戌年より年々　精姫君様江
被　進候旨、去ル酉年被　仰出候間、御仕度
之儀奉伺候
正月　奥之番

㊃＊折懸ケ＊線姫君様江被　進候御金伺書　奥之番
金五拾両
右者　線姫君様より　有栖川宮江被　進候
候ニ付、去々丑年より年々　線姫君様江被
進候旨、去ル子年被　仰出候間、御仕度之儀
奉伺候
正月　奥之番

㊀＊折懸ケ＊春御金被下伺書　　奥之番

＊四通左之通＊

御小性頭取

金五拾宛

諏訪安房守　竹本長門守　松平大膳亮　水野河内守　松平縫殿頭　高井豊前守

高拾両之内　金五両　渋江元順

高弐拾五両之内　金拾両　中川隆玄

高弐拾五両之内　金拾両　高村隆円

高弐拾五両之内　金拾両　野間榴庵

高拾両之内　金五両　成嶌甲子太郎

高拾両之内　金五両　小林栄太郎

高拾両之内　金五両　小南鉉次郎

高拾両之内　金五両　和多田金七郎

高拾両之内　金五両　川村助次郎

高弐拾両之内　金拾両　板谷桂舟

高拾五両之内　金八両　児嶋虎之助

右之通可被下置哉、奉伺候

御小性頭取介

金弐拾五両宛

山名壱岐守　本目信濃守

右例年之通可被下置哉、奉伺候

御小納戸

高百両之内　金五拾両　高村（林カ）弥兵衛

▲1

右例年之通可被下置哉、奉伺候

高五拾両之内　金弐（拾脱カ）五両　山崎宗安

高弐拾両之内　金拾両　杉枝仙庵

高弐拾両之内　金拾両　渋江元亮

正月　　奥之番

御同朋格

奥坊主組頭

銀拾五枚　　高橋久栄

右久栄儀数年骨折出精相勤候ニ付、去丑年より年々御銀被下候旨被　仰出候、当年茂書面之通可被下置哉

奥坊主組頭格

土圭間肝煎

金拾五両　　林　茂

右林茂儀年来骨折出精相勤候ニ付、年々金被下置候旨被　仰出候、当年茂書面之通可被下哉

御小道具役

金拾五両　　宗　賀

右宗賀儀格別骨折出精相勤候ニ付、別段之訳以年々御金被下置候旨被　仰出候、当年も書面之通可被下哉

御小道具役

金拾五両　　清　知

右清知儀年来骨折出精相勤候ニ付、年々御金被下置候旨被　仰出候、当年も書面之通可被下置哉

御小道具役格

御手水方

金拾両　　俊　意

御小道具役格

御鳥方

金拾両　　俊　佐

御手水方

金拾両　　三　栄

右俊意・俊佐・三栄儀、数年出精相勤候ニ付、年々御金被下置候旨被　仰出候、当年茂書面之通可被下哉

御絵番

金五百疋宛　　善　意

桂　林

右者御絵御用相勤候ニ付、為筆墨料可被下置哉

奥六尺組頭

七　蔵

右七蔵儀数年出精相勤候ニ付、年々御金被下置候旨被　仰出候、当年茂書面之通可被下置哉

右例年之通可被下置哉、奉伺候

正月　　奥之番

大判三枚　　岩　岡

右者五拾年出精相勤候ニ付　思召ヲ以年々被下置候旨被　仰出候、当年も書面之通可被下置哉

▲4

御簾中様御附
小上臈格　屋　尾
金四拾両
貞惇院様御附比丘尼
桂林院
金弐拾両
清湛院様御附比丘尼
（知願院
霊鏡院様御附比丘尼
染学院
金拾五両宛
貞惇院様御附比丘尼
行智院
（本正院
右者格別之　思召を以年々被下置候旨被　仰出候、当年も書面之通可被下哉
西丸
元御右筆
妙　成
金弐拾両
右者数年骨折相勤候ニ付、別段訳合ヲ以　思召ニ而年々被下置候旨被　仰出候、当年茂書面之通可被下置哉
文恭院様御附
元呉服之間
金七両
昨■（夏カ）
右者格別之　思召を以年々被下置候旨被　仰出候、当年茂書面之通可被下置哉
寛量院様御附比丘尼
仙寿院
金拾五両
右者数年骨折相勤候ニ付、　思召を以年々被下置候旨被　仰出候、当年茂書面之通可被下置哉
貞惇院様御附比丘尼
智　厳
金五両宛
源僖様御附
元御年寄
見性院
右者格別之　思召を以年々被下置候旨被　仰出候、当年茂書面之通可被下置哉
右之通御支度可仕哉奉伺候
正月　奥之番
㊃
御錠口
藤　尾
金弐拾両
右者為町屋鋪代年々被下置候旨被　仰出候、当年茂書面之通可被下置哉
表使
岡　野
金弐拾両
右者町屋鋪（代脱カ）被下置候迄当年茂可被下置哉

但文を略ス

天親院様
元御年寄
賢寿院
金三拾両宛
秋清院
融相院
右者町屋鋪代として年々被置(下脱カ)候、当年も可
被置(下脱カ)哉

文恭院様
元表使
金弐拾両
願生院
右者町屋敷代として年々被下置候、当年も
可被下置哉

金三拾両宛
仏性寺
妙伝寺
金弐拾両
妙伝寺
金弐拾両
妙教院
右例年之通可被下置哉
高弐百両之内
金百両
右者年中御祈祷料并御右筆間
御遣用金
右之通相廻可申哉奉伺候

正月　　奥之番

＊右書面都合八通見廻し之上正格江下ケ、留候而
差上、伺之上廿六日三四郎江下ケ可申処、居合不申候ニ付
依田平左衛門江下ル、廿九日右御金御支度宜旨
三四郎申聞候、岩園(浜岡カ)被下、右之呼出朔日ニ大奥江申込、
二月二日丹後守殿被通詞候、名代浜岡　大奥江相廻候御金
二日不残相廻＊

▲1　＊朔日ニ呼出、肝煎より
向々へ達候事
於笹之間
御小性頭取初
川村助次郎迄
主水正・丹波守
列座、丹後守申渡
但御取次衆不残
列座可致候処
主水正一人
列座致候
高橋久栄儀も
右同所ニ而申渡ス＊

▲2　＊板谷桂舟儀者

於銅火間北廊下
同人申渡ス

児嶋虎之助儀ハ
於奥新部屋
同人申渡ス

林茂儀者於
談部同人申渡ス（屋脱カ）

右之外者
奥之番三四郎申
通詞候事

川村助次郎
儀、忌ニ而引罷出候
候ニ付出勤之上（マヽ）
被下候事＊

▲3　＊二月朔ニ呼出大奥江
申込候事、
二月二日
岩岡江被下候

大判、浜岡
名代丹後守申渡ス＊

▲4　＊遣被下、其外大奥江
相廻候御金之分、
二月二日相廻ス＊

㊀正月廿七日

＊見出シ＊渋江元亮御預御薬園出役見習江
御手当之儀申上候書付

一金六両　渋江元亮御預
御薬園出役見習
四　人

但壱人前壱両二分宛

右者為御手当春・暮与両度ニ被下置候、伺済ニ付当春之分
書面之通被下置候様、尤御金之儀者最初先長伯申立候
通、御薬種御払代金之内より被下置候様奉存候、以上

正月　永井佐渡守
柳沢修理亮

㊁＊見出シ＊渋江元亮御預御薬園出役見習手伝江
御手当之儀申上候書付

渋江元亮御預り
御薬園出役見習手伝

一金壱両二分　　二　人
但壱人前三分宛
右者為御手当春・暮両度ニ被下置候、伺済ニ付当春之分書面之通被下置候様、御金之儀者御薬種御払代金之内より被下置候様奉存候、以上
永井佐渡守
正月　　柳沢修理亮
＊右二通永井佐渡守より差出、見廻之上正格江下ケ留候而差出　同人江廿八日＊

㊀＊見出シ＊奥之番江御断
織殿出役之者江御手当之儀申上候書付
木村又助御預
浜織殿出役
一金拾弐両　　八　人
但壱人前壱両二分宛
同見習
一金弐両　　壱　人
同見習
一金三両　　弐　人
但壱人前壱両二分宛
同見習手伝

一金三両　　三　人
但壱人前壱両宛
本文見習手伝之者四人之処、壱人明キ
＊下ケ札＊
有之候ニ付、当春三人江御手当之儀申上候
同御雇之者
一金壱両壱分　　壱　人
同小遣之者
一金壱両二分　　壱　人
右之者共儀為御手当春・暮与両度ニ被下置候、伺済ニ付、当春之分書面之通被下候間、右御金御小納戸より相渡候様奥之番江被仰通可被下候、以上
朝比奈甲斐守
正月　　田村備後守
内藤宮内少輔

㊁＊見出シ＊奥之番江御断
織殿之者一統江増御手当之儀申上候書付
一金拾両
右者織殿一統之者江増御手当毎春被下置候分、去ル巳年伺済ニ付、右御金御小納戸より相渡候様奥之番江被渡通可被下候、以上
朝比奈甲斐守
正月　　田村備後守
内藤宮内少輔
＊右書面二通甲斐守より差出、見廻之上正格江下ケ

留候而差出、廿八日ニ奥之番三四郎江下ル＊

正月廿八日

㊀＊見出シ＊

和糸織紙子繻子御誂書

一和糸織巾広紙子　弐拾巻

内

黒　四

御納戸茶　三

柳茶　二

藍海松葉　二

素海松葉　三

花色　二

紺　二

一同常巾紙子　五巻

内

黒　一

御納戸茶　一

柳茶　一

藍海松葉　一

紺　一

但中模様小模様

取交

一同常巾繻子　壱巻

黒　一

右之通当三月中旬迄ニ入念出来差出候様申付可被成候、以上

正月　奥之番

㊁＊見出シ＊

御老中方夏被下御誂書

御老中方夏被下御用

一御紋附縮御帷子　六

浅黄　三

玉子色　三

右之通当四月上旬迄ニ入念出来差上候様御申付可被成候、以上

正月　奥之番

＊右書面二通井関次郎右衛門より差出、見廻之上廿九日ニ同人江下ル、御誂申付候様達ス＊

㊉二月二日　左之通書面　井関次郎右衛門より差出

＊見出し＊

御召物不時被下御支度之儀奉伺候書付　伊勢守　奥之番

龍紋御裏附上下　一具　備前守

御紋附御小袖　一宛　和泉守
縮緬
羽二重　二而　伊賀守
大和守
紀伊守
丹波守
越中守
御紋附御小袖　一宛　但馬守
縮緬
羽二重　二而　安芸守
出羽守
右京亮
因幡守
若狭守
播磨守
能登守
御紋附御小袖　一宛　大内記
縮緬　二而　駿河守
羽二重　伊豆守
織部正
美濃守
右之通当卯年不時
御召物可被下置哉御支度之儀奉伺候、以上

但去ル弘化二巳年十一月拾ケ年目ニ而
書面之通不時
御召物被下置候、当年拾ケ年目ニ付、此段
奉伺候
二月　奥之番
＊右書面伺済下ル＊
＊見　御老若方御側衆江不時
出シ＊御召物被下ニ付御誂書　奥之蕃
御老若方御側衆江
不時被下御用
一龍紋御裏附上下　六具
兼法　三　五ツ星　一
十文字　二
花色　三　五ツ星　二
十文字　一
一御紋附御小袖　二拾一
兼法縮緬　拾一
同　羽二重　拾
右之通当年不時被下有之候間、入念出来当七月
中差上候様御申付可被成候、以上
二月　奥之番

＊右書面二通一〆ニ致差出、見廻之上御支度伺之方計伺、伺済之上御誂申付候様相達、両通次郎右衛門下ル、但自分引ニ付石見守へ頼、七日ニ下ル＊

○二月二日

＊折掛＊　春御定被下伺　奥之番

＊見出シ＊　春御定被下伺　奥之番

▲5

奥嶋桟留壱反
丹後嶋　壱疋　宛

御櫛番
権太遠江守
深津市正
村越只次郎
福井小十郎
青山三右衛門
美濃右馬之允（部脱カ）
守山八十郎

▲6

生龍門　壱疋宛　御月代番　右同名前

▲7

御半上下壱具
御紋附御小袖壱
嶋御小袖　壱　宛
白御小袖　壱
御裏附上下

奥之番
田沢兵庫頭
東條肥後守
依田平左衛門
曲渕左門
尾嶋友右衛門
神田求馬
佐野鉄三郎

▲8

御半上下　壱具
御紋附御小袖　宛

同介
岡三四郎
井関治郎右衛門

同過人
福井小十郎

▲9

嶋御小袖　一
白御小袖　一　ツ、

御召方
円清
初拾一人
＊名前略ス＊

▲10

嶋御袷　壱

同定介
久珉

▲11

御錠口掛

宗賀
初拾四人
＊名前略ス＊

御手水方
俊意
初九人
＊名前略ス＊

同介
傾斎

＊右書面二月二日次郎右衛門より差出、見廻之上正格へ下ケ
留候而差出、伺済、七日ニ　次郎右衛門江下ル
但見廻之廉ニ候得とも、例年之通相替儀無之ニ付、断候
計、見不申候之事
但自分三日より引ニ付、石見守へ頼伺済、七日ニ次郎右衛
門へ下ル＊

▲5　＊下札＊
去寅年春、本
文之通被下置候、
当春儀茂書面
之通可被下置哉

▲6　＊下札＊
去寅年春、本文
之通被下置候、
当春之儀も書面
之通可被下哉

▲7　＊下札＊
本文五品宛被下忝(歟)候、
御召下シ御数少ニ付、去寅

御小袖代
銀二枚宛

但外一斎儀、去ル寅年三月番遠慮被　仰付
同年十二月　御免被　仰付候得共、勤日数不足
ニ付、御定被下之儀不申上候

▲12

御明衣二宛
御湯殿方
道俊
初七人
＊名前略ス＊

御鑰番
栄久
初八人
＊名前略ス＊

御小袖壱代
銀二枚ツ、
右之通春御定可被下置哉
二月
奥之番

年春御品替ニ而
左之通
奥嶋桟留　壱反
白縮緬　一巻
右之外是迄例年
御品替ニ而被下置候
通、白縮緬　壱疋
丹後嶋　壱疋
生龍門　壱疋
右之通可被下哉

▲8
＊下札＊
本文二品宛被下置候
御定メ御座候処、御
召下シ御数少ニ付、去
寅年春御品替ニ而
左之通
奥嶋桟留　一反
白縮緬　一巻　ツ、
右之通被下置哉

▲9
＊下札＊
文文（本カ）二品ツ、被下置

御定メ御座候処、御召
下シ御数少ニ付、去ル
寅年春御品替
ニ而左之通
生絹　一疋
白縮緬　二反
白縮緬　壱巻
右之通被下置候

▲10
＊下札＊
本文同断ニ付略ス
白縮緬　一疋
右之通可被下置
哉

▲11
＊下札＊
御錠口掛・御手水方・
御鑰番、
右三役之内一役
宛、文化九申年迄
本文之通御召下シ
被下置候候（マヽ）処、当年
御錠口掛被下置所ニ

御座候得共、御数少ニ付、
御召物代銀二枚ツ、
可被下置哉

▲12　＊下ケ札＊
文化九申年迄、文（本脱カ）
通（之脱カ）被下置候処、
御明衣御数少ニ付、
御明衣代銀二枚ツ、
可被下置哉

○二月七日
坊主御定御支度出来ニ付、明日被下候旨次郎右衛門申聞候
但自分引ニ付石見守承り置

○二月八日
通詞之坊主相揃候ニ付為越候旨、次郎右衛門申聞、其後申渡候処
難有旨御礼申聞、一同江咄置候
但自分引ニ付石見守承ル
＊見出し＊
御納戸頭江御断
白縮緬　七疋
丹後嶋代り
八丈嶋　拾七疋壱反
龍門　拾四疋
右者当春御定被下御用ニ御座候、依之相渡候様御納戸江
被仰通可被下候、以上
二月　朝比奈甲斐守
内藤宮内少輔
＊右書付七日ニ甲斐守より差出候ニ付、一同見廻之上同日正覚
へ下ケ申候、但自分引ニ付石見守取扱申候＊

○二月九日
今日御櫛番初御定被下候旨、次郎右衛門申聞候

二月廿四日
＊見出し＊
八丈合京織之儀申上候書　奥之番
＊見出し＊
八丈帯織黄紬之儀申上候書付　奥之番
＊見出し無之＊
来辰年可納分
御年貢
一上黄紬　五百七拾反分

一 桑葉代　　弐拾八反
同
右之外九廉有之略ス
＊右三通小十郎より差出、見廻之上同人江
下ケ可申所詰合不申候ニ付、次郎右衛門江下ル＊

二月廿九日
＊折懸ケ＊　　奥之番
八丈織御誂書
＊見出無之＊
八丈織御注文
一八丈合京織　　弐百四拾反
一八丈帯織　　拾五反
一黄紬　　百四反
右者来辰年御注文御納戸江被　仰付可
被下候、以上
卯二月　　奥之番
＊右書面小十郎差出、見廻之上但馬守殿差出ス＊

＊見出し＊　　奥之番
八丈織御誂之儀申上候書付
一八丈合京織　　弐百四拾反
内　　百弐十一反　　御年貢
百十九反　　御誂
一八丈帯織　　拾五反
一黄紬　　百四反
右八丈織之儀、来辰年都合三百五十九反
御誂申付度奉存候、以上
卯二月　　奥番
＊右書付相済差出、見廻之上留置＊

㊥三月六日
＊見出し＊　　奥之番
奥六尺組頭長右衛門御金被下願　　奥六尺組頭
御奉公五拾壱年　　長右衛門
内組頭役拾四年　　卯六十八才
文化二丑年より当卯年奥御奉公五十壱年
無懈怠出精相勤候ニ付、先例も御座候間、当
年より生涯御金被下候様仕度、於私共偏奉
願候
三月　　奥之番
＊見出し＊　　奥之番
奥六尺組頭益五郎御金被下願

奥六尺組頭
益五郎
卯七拾六才

文化二丑年より当卯年迄奥御奉公五拾壱年
無懈怠出精相勤候ニ付、先例も御座候間、当
年より生涯御金被下置候様仕度、於私共
偏奉願候
三月　＊但両通共文略ス＊　奥之番
下札　例書
西丸奥六尺
七　蔵

右七蔵儀、寛政八辰年より
弘化三午年迄奥御奉公五拾壱年
相勤候ニ付、於奥生涯之内年々
金三両宛被下置候

＊右両通共下札同断

右書面二通三四郎差出、見廻之上元懸り
甲斐守江下ケ候処、先例も有之候間、願之通
被下候而可然旨申聞、正覚へ下ケ、留候而差出、
丹後守殿初へ咄候上伺候処、被下候様被　仰出、
右書面二通共三四郎下ケ、伺済之段も
達置候、三月十日・同十一日右両人御金被下
通候旨、且御礼三四郎申聞候＊

三月十一日

一金百疋　御膳所頭　壱人
一銀三拾匁　同組頭　三人
一金二両二分二朱　同御台所人　二十七人
四匁五分
一銀二十匁　同小間遣組頭助共　四人
一金三両二分　同小間遣　四十三人
同六尺　二十六人
一金百疋　同水汲之者　六人
同御掃除之者　二人
一金二分六匁　吟味役介共　八人
生廻り介共　十一人
一金壱分二朱五匁
右者御雛御用取扱候ニ付、被下候間、廻候様ニ
三月

右書付浜岡殿より出、次郎右衛門申聞候
但昨年左近将監殿取扱、御右筆間
御遣用金ニ而相廻、当年も丹後守殿咄、
昨年之趣ニ而相廻候様次郎右衛門達ス

○三月廿日

安政二卯年
夏冬御召物御注文書
三月
右帳面一冊小十郎差出、見廻之上廿一日
小十郎江下ケ可申処、詰合不申候ニ付次郎右衛門江
下ル

四月七日　左之通書面依田平左衛門差出

＊見出し＊

当卯年御香具御調合高書付　奥之番

当卯年御香具御調合高左之通

定式　五拾五袋
奥廻　弐拾袋
松栄院様
溶姫君様
末姫君様
晴光院様　七袋宛
誠順院様
精姫君様
線姫君様
御装束御用　弐拾袋
御能御用　三拾五袋
都合百七拾九袋
外
交草計　五拾袋
御冠御用　壱袋
御能御用　四拾九袋
去寅年御調合残
麝香　拾匁
龍脳　拾弐匁
右御残江差加御香具左之通
荒目
一甘松　壱貫九百六拾九匁
同
一木香　五百四拾目六分五厘
同
一白檀　七百拾六匁六分九厘
同

一茴香　同　六百五拾四匁
一良姜　同　四百拾四匁九分弐厘
一丁子　同　五百拾六匁七分五厘壱毛
一麝香　六百拾四匁六分
正味
一龍脳　弐百四拾六匁
右之通御香具御用請取申度
奉存候、御調合残御座候ハヽ、来辰
年御用立申候、以上
四月　奥之番

＊四月八日右書面入　御聴、同日九日平左衛門江
下ル、但一同見廻之上入　御聴候事＊

四月九日　右書面平左衛門江下ケ候処、左之書面

＊見出し＊

御膳番江御断　奥之番

荒目
一甘松　壱貫九百六拾九匁
一　――　――
一　――　――
一　――　――
一　――　――
一　――　――
一　――　――
正味
一　――　――
右之通御香具御請取申度
奉存候、以上
四月　奥之番

＊右書面御膳番健之助へ達＊

四月十三日

御膳番江達書面荻原近江守戻し
一甘松（荒目）　壱貫九百六拾九匁之処、御有合
四百目相廻、其外儀者書面之通相廻候旨
同人申聞候、平左衛門江達、書面相戻ス
但甘松不足之分者御買上ニ（マヽ）之積り申聞候

○五月七日

女中夏被下書面　　一通　外ニ一通

＊右上包折懸＊

方々様御年寄へ被下之書面　　七通

＊上包無之＊

＊右書面飛鳥井殿より出候旨、次郎右衛門差出

一覧之上見廻ニ不及、直ニ同人江下ル、預置

追而差出候旨、同人申聞候＊

＊但方々様御年寄江被下相成候七通書面計追而

差出候事、直ニ肝煎江下候而も宜候事＊

㊥五月

御馬召袴御細真地

御足袋地真岡木綿　＊是迄御真地＊

但壱反ニ付　五行出来

御足袋地真岡木綿壱反

代弐拾二匁壱厘四毛七糸　＊是迄之御真地＊

真岡木綿壱反

代拾八匁　＊慎徳院様　御真地＊

真木綿壱反

代拾壱匁五分　＊此度御真地致候＊

＊右書面次郎右衛門差出　但朱書者書入候事

是迄御馬召袴・御小袴等へ御足袋地真岡木綿

御真ニ相成候処、余程御直段も違ひ候間、此度常御上帯地(御真)御用意ニ相成可然哉、御納戸頭より懸合も有之、旁一同咄合候処、御差支之儀も有之間敷候ニ付、伺候旨申聞候ニ付、丹後守殿初評議之上、元懸り宮内少輔へも咄候処、奥之番より内談も有之、右之通相成候而も可然旨申聞候ニ付、丹後守殿初へ其後相咄、申聞候通取扱可申旨達ス＊

五月廿二日

丹後守殿
丹波守殿
左近将監殿

下書

＊見出し＊

奥向之衆并女中衆定式　　深尾善十郎

夏被下之儀相伺候書付　　戸田嘉十郎

奥向之衆并女中衆当夏定式被下時服其外御品代御金ニ而

被下相成候方御入用茂相減候ニ付、去寅年相伺候処、奥向

之衆江者時服代り御金ニ而被下候積り御支度仕、女中衆之分

ハ御品ニ而御支度可仕旨被仰渡候、当夏定式被下奥向之衆并

女中共御金ニ而被下相成候而者如何可御座有哉、去々丑年格

別之御倹約被仰出候、右ニ付被仰渡候趣茂(マヽ)も有之、時服類者

去々丑年迄者西丸献上之御品御同所御用余り之分、御本丸江

御品替ニ而

請取御用立候処、当時者其儀無之、御誂織立相増候
儀ニ付、旁以此段相伺申候、伺之通被仰渡候ハ、御金員数
▲13 之儀者［弘化元辰年伺済之］先例を以御支度可仕
候、奥向之衆・女中衆共何人分者御品、何人分者御金与
申様相成候而も可然哉ニ奉存候、依之別紙差引
相済、此段相伺申候、以上

卯　　深尾善十郎
五月　　戸田嘉十郎

去寅年夏被下御入用積り取調書付

去寅年奥向之衆定式夏被下

一帷子弐　　弐人分
　単物壱充
　代銀五百七拾目八分五毛
一帷子一　　百七拾六人分
　単物一ツ、
　代銀三拾五貫六百六拾五匁四分壱厘四毛
一帷二ツ、　　三拾五人分
　代銀四貫弐百六拾三匁五分九厘五毛
一帷子一ツ、　　七人分
　代銀四百弐拾六匁三分五厘九毛
一晒三疋充　　三人分
　代銀四百九拾二匁壱分七厘壱毛
一帷子仕立賃
　単物　　四百三十五
　代銀七百五匁三分九厘六毛
〆銀四拾弐貫百二拾三匁七分四厘
　金〆七百二両ト銀三匁七分余

去寅年

右時服代り御金ニ而被下候
員数左之通り
帷子二　　二人分
　単物一之代
一金三両壱分充
　〆六両二分
帷子一　　百七拾六人分
　単物一之代り
一金弐両弐分充
　〆四百四拾両
帷子二之代り　　三拾五人分
一金壱両弐分充
　〆五拾二両二分
帷壱之代　　七人分
一金三分充
　〆五両壱分
晒壱疋之代　　三人分
金二両ツ、
　〆六両
〆金五百拾両壱分

＊差引
金百九拾壱両三分ト　御金ニ而被下候方
銀二匁七分余　御入用相減＊

去寅年女中衆夏被下
一帷子二　九人分
単物二ツ、
代銀三貫七百六匁六分九厘七毛
一帷子一　三十五人分
単物二ツ、
代銀拾二貫二百四拾六匁三厘四毛
一帷子一　四十九人分
単物一ツ、
代銀九貫四拾壱匁九分二厘六毛
一帷子　二百三十九
単物仕立賃
代銀三百八拾七匁五分六厘二毛
〆銀二拾五貫三百八拾二匁八分九毛
金ニ〆四百二拾三両ト銀二匁八分余

去ル辰年伺済先例見合
帷子二　九人分
単物二之代
一金五両充　〆四拾五両
帷子壱　三拾五人分
単物二之代り
一金三両三分ツ、
〆百三拾壱両壱分
帷子一　四十九人分
単物一之代
一金二両二分ツ、

〆百二十二両二分
〆金弐百九拾八両三分
＊差引
金百二十四両壱分ト　御金ニ而被下候方
銀二匁八分余　御入用相減申候＊

右之通御座候、以上
卯五月

右書面二通、奥之番次郎右衛門迄御納戸頭より差出、見廻之上万里小路殿・飛鳥井殿江之内談申度旨、左門ヲ以申込、万里小路殿左之通り御請申候、大奥夏被下時服之儀、当年者西丸献上も無之、新規御誂織相成候者而者引足不申、御誂相成候ハ、御入用余程相増候間、御品代り御金ニ而被下相成候へ者、御入用余程御減相成候、当節厳敷御倹約御年限中之儀ニも御座候間、御品代り御金ニ而被下候而如何可有御座哉、尤御表之儀者昨年も御金ニ而被下候旨、御談申候処、
御不足ニ而御買上相成候者恐入候間、当年之儀者御金ニ而被下候而宜、且是者咄候儀ニ者無御座候得共、大奥ニ而者以下より以上被　仰付者へ時服被下候より御紋服着用致候儀故、定式御金ニ而被下候様相成候而者困り候旨内談有之候
＊右書面二通、次郎右衛門へ相下、御表之儀者昨年之通、大奥之儀者当年ハ時服之分御金ニ而被下、

且万里小路殿内々咄之趣次郎右衛門より御納戸頭へ
極内々咄置＊

▲13　＊朱引之処本書之
■認出ル＊

五月廿四日

右書面、本書二通共御納戸頭より肝煎正覚
以差上、丹後守殿請取、自分御用之節伺、
御表之儀者昨年之通時服并晒三疋ツ、三人分
御金ニ而被下、大奥之儀者当年ハ時服之分御金
▲14
ニ而被下伺書、丹後守殿より右之趣相達、書面
二通共肝煎正覚ヲ以被相下ヶ候
但本書方者認不申
但馬守殿江も丹後守殿より咄被置候
一時服献上溜候儀も有之候哉、丹後守殿正覚ヲ以善十郎江
被尋候処、献上不残ニ而被下三分一程ニ而、其余御誂ニ相成候
由申聞候

▲14　同廿七日
下ル

五月廿八日

昨日下ケ候書面へ左之通ヒレ附致、正覚ヲ以差出
丹後守殿より自分請取
書面相伺候、奥向之衆者
昨年之通時服其外代り
御金ニ而被下、女中衆之分者
時服計当年者代り御金
ニ而被下候積り、御支度可仕旨
被仰渡、承知仕候
五月廿八日　深尾善十郎
戸田嘉十郎

六月二日

丑年　六月十四日土用入
同月廿五日被下
寅年　六月廿六日土用入
七月二日被下
卯年　六月七日土用入
右書付次郎右衛門差出、年寄衆夏被下、何日頃相成候哉
伺候旨申聞
右相伺可申候処、土用入迄御日合有之候、伺不申内伊勢守殿
引相成、六月十三日出勤ニ付、同十四日御用之節伺候処、明日
被下候旨被仰出、月番和泉守殿江明日例年之通御一同様へ御召

下タ被下候ニ付申上置候、御達申、奥之番次郎右衛門江可達候
処、詰不申ニ付小十郎江達、頭取とも達候様相頼、泊方美濃守
殿江御達申候

六月十五日御年寄衆夏被下相済

六月十三日

丹後守殿
丹波守殿
左近将監殿

下書

＊見出し＊　　深尾善十郎
奥向之衆江御有合被下候儀、相伺候書付　　戸田嘉十郎
奥向之衆江例年御有合被下候儀、御有物時服御数少ニ付
去寅年之御振合ヲ以、御有合被下候分、当年も御金ニ而可
被下候哉、勿論時服御買上ニ仕被下候より御金ニ而被下方
御益ニも御座候間、去寅年奥向之衆御有合被下人数積りヲ
以差引、下ケ札ニ仕入御覧ニ此段相伺申候、以上
深尾善十郎
戸田嘉十郎

卯六月

一時服六充　三十三人分
一時服五充　百三十一人分
一時服三充　三十二人分

右〆高
　　袷五百五拾七
内
　　のしめ　百六拾四
　　さや　百九拾六
　　かめや　百五拾
　　白両めん四拾七

＊下ケ札＊　帷子　百九拾六
　　単物　百九拾六　のしめ
　　代金弐千四百弐拾六両弐分ト銀拾一匁余
一金拾弐両充　三十三人分
　　但時服六組
一金拾両充　百三十一人分
　　但時服五組
一金九両充　三十二人分
　　但時服二組
　　〆金千八百六拾六両

差引　　御金ニ而被下候方
　　金五百六拾両二分ト銀拾壱匁余　御益ニ相成申候
右書面并奥之番江懸合之書面添、次郎右衛門
差出、見廻之上同人江下ル

六月十五日

一昨十三日下ケ候書面本書、御納戸頭より正覚ヲ以
丹後守殿差出、自分請取　　但下書ニ而差出候
書面同様ニ付
書留不申候

入　御聴、丹後守殿より被相下候

六月廿三日

五月七日ニ次郎右衛門江預置候　時服二ツ、
方々様江為進（被脱カ）候而御年寄江被下候書面、左之通
七通次郎右衛門より差出

松栄院様附　倉橋
一時服二充　須川
　　粂岡

右

松栄院様江被為進
松栄院様より被下
四月

＊右同断ニ付略ス＊

溶姫君様附　若倉
　　須山

末姫君様附　磯山
　　裏町
　　三保沢
　　増田

晴光院様附　瀧園
　　園村
　　藤沢

精姫君様附　高倉
　　八百村
　　生田

線姫君様附　高丘
　　桜嶋
　　藤岡

右七通正覚江下ケ御納戸江断
右同日左之通下タ見差出

御小性　奥之番
御医師　添物伺書　島村（高橋カ）久栄
御明衣代金被下候分　友珉

玄順　　奥之番
貞伯　　奥之番

女中夏被下物伺書
先而奥より出ス
女中名前書付　二通
右書類直ニ次郎右衛門江下ル

六月廿六日

女中夏被下、奥向添物被下、伺相済候旨、駿河守殿
被申聞候、奥之番次郎右衛門よりも申聞候
女中被下七月朔日、坊主被下同二日、奥向被下
七月六日
右之通之旨、駿河守殿被申聞候、次郎右衛門よりも申聞候

六月廿日

弥明日女中被下通詞候旨、駿河守殿被申聞候、
坊主御金被下弥二日之旨、次郎右衛門申聞候
御金四百三両二分

七月朔日　左之通御褒美願次郎右衛門差出ス
＊折懸ケ＊　御小道具役　御褒美願
御賄新組　御褒美願　奥之番
＊見出シ＊

御小道具役御褒美願　奥之番
＊見出シ＊
御賄新組御褒美願　奥之番
＊折　御休息御庭之者　御褒美願
掛＊　山里御庭之者　奥之番
＊見　御休息御庭之者
出シ＊御芝掛御褒美願　奥之番
＊見　御休息御庭之者御梅掛
出シ＊不時御褒美願御書付　御休息御庭之者支配
＊見　御休息御庭之者不時
出シ＊御褒美奉願御書付　同断
＊見　元支配之者取場所
出シ＊御褒美奉願御書付　同断
＊見　山里御庭之者御芝掛
出シ＊御褒美奉願御書付　同断
＊上包無之　見出し＊　御能懸
奥坊主御能御用相勤候者師匠届被下願　奥之番
但十八人二百疋ツ、
＊右何れも見廻之上正覚江留出ス、七月二日伺済
七月三日　伺済之旨次郎右衛門達書面相下ル
但、御庭之者支配江之被下者、御用懸衆通詞ニ付
下候節正覚被達候事＊

七月五日　右被下御仕度宜旨、三四郎申聞候、丹後守殿江御咄申、明日同人通詞之旨三四郎江達、御庭之者支配明日丹後守殿通詞之旨正覚江達

七月六日　於談部屋御庭之者支配両人通詞

相済、左近将監殿列座　但銀三枚ツヽ

一御小道具役初一同へ被下物通詞御礼　三四郎申聞候

七月十六日

八丈嶋御反物納之儀ニ付書付　江川太郎左衛門

覚

去寅年

御注文　一八丈合京織弐百四十反　此度可相納分

内訳

壱番　二反　三番　一反

壱番より五拾番迄　反数不同、五十番迄ニ而二百四十反ニ成

右同断

一同　帯織　拾五反

是者御注文通此度可相納分

右同断

一同　黄紬　百四反

是者右同断

去寅年可相納分書面之通織立方皆出来、内改相済

次第上納いたし度候、尤納日限之儀者前広御安内(案)可致候、依之御届申上候

卯六月　江川太郎左衛門

右文面略ス

七月廿五日

金　百両

銀　拾枚

右二丸御製薬所御入用ニ候

六月

右書付　鉄三郎差出、見廻し之上但馬守殿江差出ス　但扣差出、左之通

金　百両

銀　拾枚

右者二丸御製薬所為御用請取申度奉存候

六月　奥之番

八月二日

＊折懸ケ＊　秋御定被下伺　奥之番

＊見出シ＊

秋御定被下伺　御櫛番　奥之番

▲15

奥嶋桟留壱反
五郎丸布壱疋
白綸子　壱反　宛
芭蕉布　壱巻

権太遠江守
深津市正
村越只次郎
福井小十郎
青山三右衛門
美濃部右馬之允
守山八十郎

▲16

白縮緬　壱反宛

御月代
右同人名前略ス
奥之番

▲17

御紋改御帷子壱
嶋御帷子　壱
御単上下　壱具　宛
御長上下　壱具
御上帯　壱筋

田沢兵庫頭
東條肥後守
依田平左衛門
曲渕左門
尾嶋友右衛門
神田求馬
佐野鉄三郎

▲18

御紋附御帷子　壱
御半上下　壱具ツ、

同介
岡三四郎
井関治郎右衛門

同過人
福井小十郎

▲19

嶋御帷壱ツ、

御召方
円清初
拾一人名前
略ス

同定介
久珉

御錠口掛

宗賀初
拾四人名前
略ス

御帷子壱代
銀壱枚ツ、

▲20

嶋御帷　壱ツ、

御手水方
俊意初
拾　人
名前略ス

同介
傾斎

▲21

御明衣弐宛

御湯殿方
道俊初
七人名前
略ス

御鑰番

御帷子壱代
銀壱枚宛

（栄久初
八人名前
略ス）

右之通秋御定可被下置哉
八月　　奥之番

＊右書面八月二日次郎右衛門差出、見廻之上正覚へ下ケ留候而差出、伺済同三日　次郎右衛門江下ケ、伺済之旨達ス＊

＊但見廻之廉候得共、例年之通相替候儀無之ニ付、口上ニ而申見廻無之＊

▲15　＊下ケ札＊

去寅年秋本文之
通被下置候、
当秋之儀も書面
之通可被下置哉

▲16　＊下ケ札＊

去寅年秋本文
之通被下置候、
当秋之儀も書面
之通被下へく哉

▲17　＊下ケ札＊

本文五品宛被下置候
御定ニ御座候処、御召
下シ御数少ニ付、去寅
年秋御品替ニ而
左之通

奥嶋桟留　壱反
越前綿　二把　宛

右之外、是迄例年
御品替ニ而被下置候通

白縮緬　壱疋
丹後嶋　壱疋　ツ、

右之通可被下置哉

▲18　＊下ケ札＊

本文二品宛被下置候御定
候処、御召下シ御数少ニ付、
去寅年秋御品替ニ而
左之通

奥嶋桟留　一反
越前綿　一把　ツ、

右之通可被下置哉

▲19 ＊下ケ札＊

本文壱品宛被下置候御
定ニ御座候処、御召下シ御
数少ニ付、去寅年秋御品
替ニ而被下、左之通
巻縮緬　壱巻
越前綿　二把　ツ、
右之通可被下置哉
但御召方秋御定御帷子
壱宛被下置候ニ付、定介
之者減被下方無御座
候例、春御定之節
減シ被下置候ニ付、秋御定
本文之通被下置候、
御先格ニ御座候

▲20 ＊下ケ札＊

御錠口掛・御手水方
・御鑰番
右三役之内壱役宛文化
九申年より本文之通
御召下シ被下置候処、当年
御手水方被下年ニ御座
候得共、御数少ニ付
御召物代銀壱枚ツ、
可被下置哉

▲21 ＊下ケ札＊

文化九申年迄、本文
之通被下候処、御明衣
御数少ニ付御明衣代
銀弐枚宛可被下置哉

八月四日　秋御定懸役坊主被下御礼次郎右衛門申聞候
＊奥之間御桶番初へ七日ニ被下＊

八月五日

御納戸頭江

一　白縮緬　七疋
丹後嶋代
一　並巾八丈嶋　七疋
右者当秋御定被下御用ニ御座候、依之相渡候之様
御納頭江(戸脱カ)被　仰渡可被下候、以上　朝比奈甲斐守
八月　内藤宮内少輔
＊右、見廻之上正覚ヲ以御納戸頭江達ス＊

八月五日

一金弐千五百両　　千五拾両
内　弐朱金　　千四百五拾両
　壱朱金

右者人参御買上代金野州板荷村人参中製所迄
相廻候様、御勘定奉行江被仰渡御座候様仕度奉存候、以上

八月　　永井佐渡守
　　塩谷中務少輔

＊右、中務少輔差出、見廻之上八月七日但馬守殿江差出ス＊

八月八日

＊見出シ＊

小普請奉行江御断

一金弐拾二両
一銀拾壱匁三分九厘
右者浜御庭鴨場堀々
御覗所御修復鳥溜堀々共御鳥寄垣御取建御入用書面之
通浜奉行申聞候間、小普請方より相渡候様被仰渡可被下候、
以上

八月　　朝比奈甲斐守
　　田村備後守
　　内藤宮内少輔

＊右書面備後守差出、昨年より壱両二分減候旨
申聞候、見廻之上但馬守殿江可差出候処、引ニ付
八月十一日出勤ニ付差出候＊

八月廿五日　御製薬所御金請取候旨三四郎申聞候

八月廿六日

騎射之禄
へるへとわん
龍門
交紗
たいはゐの禄
へるへとわん
龍門

チンチウ調進無之ニ付、右龍門御買上、御納戸江達候旨
次郎右衛門申聞候

十月十四日

御錠口
五人
表使
六人
表使過人
壱人

一金五百疋充

一金三百疋充　　三人
　　三人
　　使番頭勤
一金弐百疋充　　拾九人
右者例年被下候間廻候様ニ
十月
　　御末頭格
　　使番頭
　　三人
　　御仲居格
　　使番勤
　　弐人
　　火之番ニ而
　　使番
　　壱人
　　火之番格
　　使番
　　壱人
　　使番
　　拾弐人
右者二丸詰泊致候ニ付、被下候間廻候様
十月
右書付十四日奥之番小十郎より歌橋殿被差出候趣ニ差出、
同人江相渡候処、御金年番三四郎へ相渡候段申聞候、
但右御金者御小納戸金より出候旨、小十郎申聞候

㊀**十月廿七日**

御年番衆初不時被下御召出来ニ付、次郎右衛門見分之儀申聞、御用済引懸ケ、溜ニ而一同見分致候、
同日被下日限之儀伺候旨申聞、且弘化四巳年十一月十九日被下候節之絵図面差出候ニ付、丹後守殿江絵図面差出置

㊁**十月廿八日**

万里小路殿初名前認書付　　一巻
本寿院様附女中名前認候書付　　一巻
上臈御年寄高辻初名前認候書付　　一巻
御守殿御住居向御年寄初御金被下候　　七通
名前
右奥より出候旨ニ而三四郎より為見、一同見廻之積ニ而、
同人江戻ス
但右者泊方取扱

○**十一月朔日**

左之書付奥之番三四郎差出、越中守殿江出ス
但扣添差出、扣者留置

大判　六拾枚
小判　七千両
銀　八百枚
右者御小納戸御用ニ候
十一月

○十一月三日
縮御誂書
一御紋付縮御帷子　二十反
一嶋越後縮御帷子　五十反
内何番幾反と申事認有之候得共略ス
一白越後縮
御地次成方　五十反
右之通来辰年御注文、都合九十五反
御誂御申付可被成候、以上
右之外二通之内略認置
御紋附　辰年へ越　御反物共　十五　御誂　二十　都合　三十五
嶋縮　辰年へ越　御反物共　二十　御誂　五十　都合　七十
白御襦袢地　辰年へ越　十八　御誂五十　都合　七十
右書付次郎右衛門差出、見廻之上同人へ下ル

○十一月十日
本寿院様江例年被下候御金如何相心得可申哉之段
三四郎申聞候ニ付、丹後守殿江御談申候処、是迄之通
被進候而可然旨被申聞候ニ付、同人達置候、
春二百両　但右御金儀者全御小納戸金より出ル
暮三百両　都合五百両

㊀同日
御年寄衆・若年寄衆・泊方御側衆江拾ケ年目
御召被下、来十三日之積、次郎右衛門江達置候
尤前日入　御聴可申事、丹後守殿取扱之積り

㊁同日　左之書面之通、次郎右衛門差出ス
見出シ
▲22　○　菅谷鵠翁江御納戸払被下伺
御紋附御小袖一
紬一反　菅谷鵠翁
右当暮御納戸払之節可被下置哉
十一月　奥之番
右御用之伺、伺済、十一月十一日次郎右衛門江達、書面戻ス
跡二通者見之上戻ス

▲22　下ケ札

御紋附御小袖一
黄紬一反
右天保十三寅年十二月
朔日御納戸払之節
被下置候

○同日
当卯年御納戸払被下金高
○ 凡
金千弐百七拾六両壱分
右之処江 御召物下り高
凡
金七百拾両二分銀五匁
御小納戸御有物
凡
金八拾壱分二朱（両脱カ）
表御納戸より請取物
凡
金三百三拾五両壱分
三口〆金千百二拾六両二朱銀五匁差引
金百五十両銀二匁五分
右之通御不足金ニ御座候間、別紙之通毛類請取申度奉存候
以上 十一月

○ 毛類十一廉何々と申儀略ス
〆金百五十八両二分
右之通毛類請取、御不足金見合差引仕候得者、
金八両壱分二朱銀五匁
右過之方者金被下相済、差引仕、御納戸江相戻申候
右之通御座候、以上
十一月

泊
○十一月十二日
精姫君様江御借人
一 七両 表使 駒井
一 五両 御右筆 壱人
一 三両ツ、 呉服之間壱人
御半下 壱人
右之通廻候様
右浜岡殿出候旨、友右衛門差出、肝煎より御納戸江達
ス
但例年物之由、尤年番物ニ者無之哉之事

㊀同日
年寄衆・若年寄衆・泊方御側衆江
拾ケ年目御召被下、弥明日被下、入 御聴、丹後守殿より

年若泊方江心得ニ達置候、奥之番次郎右衛門江可達処
詰合不申候ニ付、友右衛門江達置候、尤被下之処者丹後守殿
取扱候積り

㊀十一月十三日

御年寄衆・若年寄衆・泊方御側衆江被下　御召、御仕
度宜次郎右衛門申聞候、尤召出之有無ニ而御座候処、拵
宜被申上候旨是又申聞候
一四半時過御年寄衆・若年寄衆・泊方御側衆江御召下被下、相
済
御座間御二間並置、丹後守通詞　暫御召不被下候間、被下
候旨達ス、但三度ニ達ス
丹後守花籠御衝建之処出居ル
一泊方ニ者御前御礼有之、丹後守御取合、若狭守・播磨守・駿
河守頂戴周防守・能登守・大内記・美濃守引ニ付、出勤ニ而
被下候事
御紋附御小袖　一　小紋裏附御上下一具ツヽ、　年寄衆
御紋附御小袖　一ツヽ、
何れも御仕立ニ無之

○同日

濱岡殿より左之通書面出、尤例年物之由、小十郎申聞候

・松栄院様御初、御七方様御附御用人江被下
但、時服二ツヽ、
右者右御七方様江可進、御方々様より被下
相成候事　略認置
・一白銀七枚　錦小路
右者屠蘇白散差上候付
小川玄達
・一銀三枚ツヽ、
太田元禮
柴田元春
右之通被下候間、相廻候様　篠崎三哲
右三通正覚ヲ以御納戸江断
一　二十両
御福引御代金廻候様
使番頭初
一　三両充　拾九人
右二通者御小納戸金より出候ニ付、三四郎へ達ス
但御福引御用之二十両者御右筆間御入用ニ而相廻候事

○十一月十五日　例年之通向々江御褒美伺手廻し致、差出候様正
覚より達ス

○十一月十六日

一増上寺大僧正初十四寺、右年中御内々御初尾廻候様

十一月

一白銀二十枚増上寺大僧正　右者御納物年中御初尾廻候様

十一月

一白五枚　例暮御初尾　一白銀二枚ツ、　佛性寺

右者年御符上り候ニ付　例暮御初尾　妙傳寺

一白銀三枚ツ、　安立院

右御内々例暮御初尾　祐天寺

右之通廻候様

十一月

右二通正覚ヲ以御納戸江断

一三両ツ、　御錠口　五人

一千疋ツ、　同介　三人

一白銀三枚ツ、　御次　九人

一帯　一筋ツ、　同　九人

右火之元廻御用勤候ニ付被下

十一月

一　金百両

右御右筆間御遣用廻候様ニ

十一月

一　二百疋ツ、

右例暮之通被下候間廻り候様

十一月

右三通三四郎江下ケ廻候様達ス

○同日　御小納戸金御納戸より請取候旨三四郎申聞候

○同日　左之通り書面九通　竹田摂津守差出

野馬方并掛之者

御褒美之儀申上候書付　竹田摂津守

野馬方并掛り之者御林掛

御褒美之儀申上候書付　同人

野馬役所借金御貸附取扱候ニ付

野馬方并掛之者御褒美之儀申上候書付　同人

綿貫夏右衛門御褒美

之儀申上候書付　同人

野馬下乗仕候者

御褒美之儀申上候書付　同人

白牛酪製薬人

御褒美之儀申上候書付　同人

〔付箋、白紙〕

白牛酪製薬人別段

御褒美之儀申上候書付　同人

頭取部屋書役之者

御褒美之儀申上候書付　同人

野馬方■〔同カ〕改役家来野馬方元〆

御褒美之儀申上候書付　同人

見廻シ之積りニ而例年者ニ付見廻無之

十一月十六日正覚江下ケ留差出候而入　御聴伺済、同十八日

摂津守江下ル

○十一月十九日　左之書付六通、三四郎差出ス

御小性頭取

御小性　　千石以上御金被下伺書

御小納戸　　奥之番

奥之番

女中御金被下伺書　　奥之番

精姫君様江被為　進候御金御仕度伺書

酉年より　三百両　　奥之番

精姫君様江被為　進候御金御仕度伺書

酉年より　百両　　奥之番

霊鑑寺宮様江被為　進候御金御仕度伺書付

亥年より　五十両　　奥之番

御召方御内々御褒美願

十二人　壱両ツ、　　奥之番

＊右いつれも一躰見廻之処、例年物ニ付見廻しニ不及、

入　御聴伺済、正覚江下ケ、差出候上ニ而、三四郎江下ケル＊

本寿院様例年五百両被進

但春二百両　暮三百両

御格合被　仰出候ニ付、丹後守殿より伺候処、是迄之通被　進候旨被　仰出、右之段十一月廿日丹後守殿より万里小路殿江被達候

右之趣三四郎達、御仕度致候様達ス

▲23

○十一月廿一日　野々山鉦蔵差出ス

折懸ケ

御磨方四ケ年目御褒美願　　御鉄炮掛

嘉永五子年迄四ケ年目ニ而御褒美被下、但馬守殿被仰渡

銀三枚ツ、　田付主計支配御磨方組

二人　同組頭介　壱人

十一月　銀二枚ツ、　同御磨方九人　同見習壱人

木村弾正初九人

▲23

＊表へ

出ス＊

▲24

○十一月廿二日　次郎右衛門　差出　　伺書一通

帳面二袋

御納戸拂被下伺　一冊
別伺　一冊　＊是者披キ入＊
袋入
▲25
献上物
奥下り物　伺　一冊　＊御覧＊
不時被下物帳
御相談物帳　＊是者見廻計ニ而下ル＊
▲26
＊折懸＊
伺書　＊読入　御聴＊　奥之番
御掃除掛初奥坊主組頭・御小道具役
私共頂戴之内御寝巻・御小袖其外夫々為戴申奉存候
十一月　奥之番
▲24
（付箋）「不留」
（付箋下）「＊御納戸掛
奥＊　」
▲25
（付箋）「惣御有物」
▲26
（付箋）「当年無之」

○十一月廿二日
＊下ケ札　袋入＊　大奥女中并
＊御下見＊　本寿院様御附　御金被下調窺書　奥之番
先達大奥より出候名前書三通添差出
＊右下見三四郎差出、自分一覧之上同人江下ル
但右者泊方取扱　駿河守殿江差出候旨申聞候＊

○十一月廿二日　高橋久栄
御用部屋坊主御褒美願申上　友珉
▲27
二百貫ツ、　御嶋台掛　意格　玄順
御用部屋　良賀　貞伯
介　友俊（意カ）
甫俊
御用部屋より願
＊右若狭守殿持参被致、正覚江下ケ、差出伺済、正覚江下ル＊
▲27
（白紙付箋）

○十一月廿五日　右（左カ）書付二通御広敷御用人より正覚ヲ以差出
懸札
御用懸衆　書役　御広敷

吟味役御褒美奉願候書付　　御用人
御広敷御用部屋書役　　伊賀格吟味役初御褒美願
支配之者　　御広敷
御手当奉願候書付　　御用人
御広敷御用部屋書役初　仕丁其外御手当願
＊廿六日伺済、正覚下ル＊

○同日　左之書付四通永井佐渡守差出＊見廻之廉候得共
例年物ニ付見廻無之＊
奥之番江御断
○巣鴨御薬園定居之者江御手当之儀申上候書付
定居之二人江壱両ツヽ　綿羊飼立夜廻見廻りニ付
＊廿六日三四郎江下ル＊
○渋江元亮・渋江元順江御手当之儀申上候書付
二十両　元亮　十両　元順
御薬種御払代金より被下
○渋江元亮御預御薬園出役見習江
御手当之儀申上候書付
御薬園出役見習　四人
六両　壱人前壱両二分ツヽ
○同断出役見習手伝江　二人江　壱両二分ヲ
御手当之申上候書付（儀脱カ）　壱人前三分ツヽ
＊右三通廿六日佐渡守江下ル＊

▲28
同日　左之通十一通　帳面二冊　御小性頭取豊前守差出
外ニ御鳥懸御新座敷御雨戸明建ニ付御褒願差出（美脱カ）
御茶屋掛名前　＊三十三人　壱人減＊
御鷹御用相勤候者名前　＊四人＊
御細工掛名前　＊六人　御雇壱人＊
鷹之間御雇名前＊昨年例如　七人＊
御謡御相手之者名前　＊讃岐守・周防守入、唯一抜
ケ十人　壱人減ス＊
御植木掛名前　＊八人＊
御花活掛名前　＊五人＊
御錦魚子相立候者名前　＊壱人＊
御絵御相手相勤候名前　＊壱人＊
雪白鴛鴦掛名前　＊三十六人　壱人減＊
御絵御用相勤候名前　＊壱人＊
＊右拾壱通　御前差出候様同人江達ス＊
＊右御褒美帳面致被下之廉ニ認差出、のり入半切へ認、見廻之
上伺、思召被為在候御沙汰ニ付、猶又奉書半切へ認、上包美紙
二折折懸、上江　上と御用之、差出伺済、右書面正覚江下ル＊
＊但昨年被下之名前奉書半切へ認、正覚より
先達而差出置、最初伺候節　御前江差出＊

（この間、二丁半分の白紙につき略す）

▲29

御褒美願　　御小性頭取

右帳面御絵師御褒美願員数不認差出差出（マヽ）

正覚江下ケ員数認下ケ札ニ而差出、伺済同人江

御納戸江断候事

御褒美願　　御小性頭取

右帳面者御絵番坊主御褒美願

＊右者直ニ奥之番三四郎江下ル＊

▲28　御小性頭取

▲29　御小性頭取

▲30

○十一月廿六日

六尺組頭初御褒美被下、下見三四郎差出、自分

一覧之上直ニ同人江下ル

＊右者泊方取扱＊

▲30　＊泊＊

○同日　左之書付二通御場懸り明キニ付、佐渡守

差出

木村又助江御手当之儀申上候書付

奥之番江御断

織殿出役之者江御手当之儀申上候書付

＊肝煎正覚江下ケ留候而差出夫々達ス＊

＊伺ニ不及見廻も無之候事＊

○十一月廿七日　左之通差出、大奥より平左衛門差出ス

白紗綾　一端ツヽ、　御右筆頭　壱人

御右筆　六人

帯　一筋ツヽ、　御広座　十人

＊右大奥差出之、書付不及候得共、隔年物ニ付見合之為

認置候＊

▲31

○十一月廿八日　左之通　帳面　一冊　御鳥懸り只次郎差出ス

折懸ケ内二通　折懸内一通外二通

安政元寅年中

御鳥御入用調帳　　御鳥懸り

卯十一月　　村越只次郎

安政元寅年　御鳥御入用調書抜

御無代物　書抜　安政二卯年十一月　御鳥懸

御鳥十ヶ月御入用調

安政二丑（マヽ）年十一月　御鳥掛

＊右一覧之上同人江戻ス＊

御鳥方御取締御褒美願　　御鳥掛

御小遣役格御鳥方御取締　俊佐　去暮三両被下

＊右二廉伺済、正覚江下ル＊

▲31　御鳥懸り

▲32

○同日　左之之(マヽ)袋入帳面次郎右衛門差出ス

小割帳　　奥之番

＊右抜キ入　御覧、相済同人江下ル＊

▲32　奥之番

▲33

○十一月廿九日　左之通　帳面三冊　書付六通

御膳番須田多宮差出

御膳所向不時御褒美之儀申上候書付　　御膳番

御製薬所三ノ丸御薬草掛御褒美之儀申上候書付　御膳番

御薬方坊主献之間掛六尺御褒美之儀申上候書付　御膳番

右三廉帳面

＊隔年御褒美　熊笹取扱＊

＊見出シ＊　吹上御普請方江御褒美之儀申上候書付　御膳番

＊五年目御褒美　糸瓜水取扱＊

＊見出シ＊　支配之者臨時御褒(美脱カ)願書付　　岡田利左衛門

芥川小野寺

＊見出シ＊　　＊御膳番江下ル＊

被下家具取扱候者御褒美之儀申上候書付　　御膳番

＊見出シ＊　　＊御奥之番下ル＊

御薬方江鰹節代被下候儀申上候書付　　御膳番

＊見出シ＊

御薬方五ケ年皆勤御褒美之儀申上候書付　　御膳番

＊見出し無之＊

御賄調役初へ串鼠被下候書付

＊右いつれも伺相済、晦日正覚へ下ル＊

▲33　御膳番

▲34

○十一月晦日　左之二通　兵庫頭差出

書役複円江被下物之儀申上候書付　　三百疋被下

去暮迄清朴へ被下候振合　　元掛

奥御医師江

御召下御羽織被下之儀申上候書付

嘉永五子年閏三月三日　　大膳亮　好庵

西丸奥御医師被　仰付候

但当卯年四ケ年目　　元懸り

＊右正覚江下差出候上見廻済、伺相済

正覚江達書面同人より兵庫頭へ戻ス＊

▲34　元懸り

△○**同日**　明日例年之通御召下被下、例五ツ時揃ニ候、将御礼無之ニ付四時揃ニ而可然哉、次郎右衛門申聞、丹波守殿江咄合、右之通ニ而可然被申聞明日一役一人通詞之向々江可達旨同人申聞候

△○**同日**　大奥女中并坊主御金被下明日之旨駿河守殿被申聞候、三四郎よりも申聞候、承り置

△**十二月朔日**

例之通御召下、御有合御品被下、一役一人通詞於談部屋丹後守殿通詞ニ而相済

但昨日丹後守殿引ニ付、丹波守殿と達置候処丹後守殿出勤ニ付、如右

△○**同日**

本寿院様江被進、其外老女初被下御金相廻候旨

三四郎申聞候

駿河守殿通詞相済候ニ付御品御用人江相渡候旨

同人申聞候

丹後守殿・丹波守殿・石見守・自分　御召下頂戴

相済

△○**同日**　因幡守殿出勤ニ付今日被下

▲35 **同日**　左之帳面　一冊　佐渡守差出

外二通一〆

御医師御褒美之儀申上候帳面　＊佐渡守より之伺＊

＊折懸ケ＊

御方々様御用御薬貼数書付　本康宗達

＊御薬数二千二百四十一貼＊

＊折懸ケ＊　多紀楽春院

＊元康宗達御褒美願＊　辻本為春院

＊右いつれも正格江下ル　法印より御褒願(美脱カ)左之通員数認

下ケ札致、差出ス＊

＊下ケ札　去寅年御薬二千百八拾四貼

上　銀二十枚下シ被下置候＊

＊右いつれも伺済、正覚江下ル＊

▲35

（付箋）「不留」。（付箋下）「元懸り○」

▲36

同日　左之帳面　一冊外ニ二通　　修理亮より差出ス

＊帳面＊　　田村備後守

御褒美願　　柳沢修理亮

＊見出シ＊　神田橋外明地騎射稽古御用

支配之者被下物奉願候書付　　吹上奉行

＊見出シ無之＊　　＊備後守

御弓方坊主江臨時被下物之儀申上候書付　　＊修理亮　願＊

＊右正覚江下ケ、差出伺済、四人江下ル＊

▲36

（付箋）「不留」。（付箋下）「騎射懸」

▲37

○**十二月二日**　左之書付　三通　佐渡守差出ス

＊見出シ＊　木村又助・河合安三郎・金子鉄（鉉カ）次郎江

被下物之儀申上候書付

＊見出シ＊　　木村又助

朝鮮種人参掛之者被下物奉願候書付　　河合安三郎

金子鉄（鉉カ）次郎

＊見出シ　　同人

一〆＊　朝鮮種人参助掛り之者被下物奉願候書付　同人

同人

＊右正覚江下ケ、調差出伺済、四日ニ同人江下ル＊

▲37　人参懸り

同日　左之通伺書、先日三四郎差出、咄認置

勘定役格御手大工世話役並　稲垣三次郎江

金三百疋可被下哉之伺　三四郎差出、例も無之ニ付元懸り江

勘弁為致候処、御手大工同様之勤方、例も無之ニ付被下之儀

者不及御沙汰方と申聞、見廻之上入　御聴、伺書三四郎江戻

ス　元懸り兵庫頭

▲38

○**十二月三日**　左之拾二通　豊前守差出ス

御弓御相手相勤候者名前

（御休息御矢場ニ而度々御的有之、御弓掛

一同格別骨折候ニ付、別段奉願候者名前）

御月代御髭数多御差上候者名前

御表具御用相勤候者名前

御菓子御煮物御用相勤候者名前

御糊細工仕候者名前

※御能御囃方御番組認候者名前

御書物御用相勤候者名前

御能掛名前
御謡御相手折々罷出候者名前
竹橋掛名前
御狂言小舞等折々罷出候者名前
御手本差上候数書付
狩野勝川※
（※で挟んだ部分は、「御弓…」～「御糊…」の下段に記載されていたものである。字数の都合上ここに記載する）
＊右御前被下、御小性頭取扱＊

▲38　御小性頭取
不時

▲39
○十二月三日　帳面三冊　頭取兵庫頭差出
通物十五通
御馬御相手懸江被下物之儀申上候書付
松平大膳亮江被下物之儀申上候書付　＊早出居残り＊
松平大膳亮江被下物之儀申上候書付
御弓掛江被下物之儀申上候書付
田沢兵庫頭江被下物之儀御心取申上候書付　＊元掛＊
御能掛江被下物之儀申上候書付　＊五ケ年目御褒美＊
田沢兵庫頭江被下物之儀御心取申上候書付　＊御召御馬御下乗撰方様方＊
同人江被下物之儀申上候書付　＊御馬御相手重立＊
奥向御貸附金取扱候者江被下物之儀申上候書付
上向御蝋燭掛江被下物之儀申上書付
柳生対馬守江被下物之儀御心取申上候書付
成嶋甲子太郎
小林栄太郎　江被下物之儀申上候書付
御匙見習江被下物之儀申上候書付
鶴見七左衛門
大武藤助　江被下物之儀申上候書付
村松静之助・曲木仙之助・都筑藤右衛門・渡辺半十郎江被下物之儀申上候書付
御小性
御納戸　掛々御褒美調
（朱線）御小納戸頭取部屋書役御褒美奉願候帳面
御褒美願　＊帳面＊　諏訪部弥三郎
＊右帳面三冊外通物十五通正覚江下ケ調候而差出、伺済
五日ニ正覚江下ル＊

振前
楓之間掛　御鷹据前日数調　一通
鷹之間掛　性名　一通　夏鷹据前日数調　一通
白鷺鴦掛
＊右三通者手調ニ付、正覚江者下ケ不申＊

▲39　頭取

▲40
○同日　帳面一冊　佐渡守差出ス
外二通
御薬園向御褒美願　＊帳面＊
御小納戸頭取部屋書役江御褒美之儀奉願候書付
一〆　御小納戸頭取部屋書役江増御褒美之儀奉願候書付
＊正覚江下ケ、伺済、六日ニ同人江下ル＊

▲40　御薬園（朱で重ね書きあるが不詳）

▲41
○同日　帳面一冊　兵庫頭差出ス
通物四通　内二通　一〆
甘薯掛江被下物之儀申上候帳面　永井佐渡守
田沢兵庫頭

吹上砂糖製作掛之者別段御褒美奉願候書付　木村又助
河合安三郎
御小納戸頭取部屋書役江御褒美之儀奉願候書付
当冬砂糖掛之者御手当奉願候書付　＊隔年物＊　同人
同人
〆　吹上砂糖製作掛之者御手当例書　同人
同人
＊正覚江調候而差出、伺済、六日ニ正覚江下ル＊

▲41　甘薯

▲42
○同日　帳面四冊　御場懸り宮内少輔差出
通物二通一ヲ〆
中田甚三郎・木村又助江　戸田久助
被下物之儀申上候書付　内山七兵衛
吹上御褒美願帳　戸田五助
浜御庭
御成先御用共外掛り役相勤候支配之者被下物之儀奉願候書付　木村又助

浜織殿之者御褒美奉願候書付　木村又助
（御成先漁猟御用相勤候者
一〆　御手当之儀奉願候書付　御休息御庭之者支配
御成先御用御度数書）
＊正覚江下ケ、調差出、伺済、六日ニ正覚江下ル＊

▲42　（付箋）「不留」、（付箋下）「御場懸り」

▲43
△○同日　通物二通ヲ一〆　中務少輔差出ス
御小納戸頭取部屋書役江八ケ年目被下物之儀
申上候書付
御弓・御鉄炮兼役定介清兵衛御褒美願　肝煎より
＊正覚江下ケ、伺済、六日ニ同人江下ル＊

▲43　頭取

▲44
○同日　通物十三通、一〆十六通、一〆四通、一〆帳面三冊
外ニ一通　江原下総守より之御褒美願一通　三四郎差
出ス
三通一〆
御褒美願　＊袋入帳面＊　奥之番

通物之方
御褒美願　＊同　断＊　奥之番
安政二卯年
年中仕上帳　＊是者見之廻之上三四郎江下ル＊
十一月　児島保助
御取締掛御小道具役御褒美願　奥之番
御作事方三ケ年奥詰之者同断　同断
御手大工　同断　同断
御茶屋向御燭台御火鉢類取扱御召方同断　同断
○柚木御多門御風干相勤候御召方七ケ年目同断　同断
○十ケ年目御具足取扱候御召方同断　同断
○御手水方三栄御金被下願　同断
御絵番御書物掛増同断　同断
御絵番　別段同断　同断
張番平之者同断　同断
吉本与惣左衛門同断　同断
御鑰番臨時同断　同断
御手大工組頭介茂次郎同断　同断
＊十三通　一〆＊
当夏中御風干御用相勤候者御褒美候書付　御休息御庭之者支
配
御休息御庭之者不時御褒奉（美脱カ）願候書付　同
大奥御座之間御庭掛之者同断　同

御休息御庭之者半太郎別段同断　同
三丸明地御番人当暮同断　同
同所同断隔年目同断　同
五十三間御弓・御馬御用相勤候不時同断　同
御休息御庭之者御鉢掛　同断　同
御鉢物掛之者別段　同断　同
御休息御庭之者西丸御庭向御用相勤候　同断　同
山里御庭之者山里御茶屋向御風入相勤　同断　同
同　同　御芝掛　同断　同
同　同　宿場掛　同断　同
同　同　御中菊掛　同断　同
同　同　諸品取調　同断　同
御休息御庭之者支配御褒美願　奥之番
＊十六通　一〆＊
小普請方御褒美願　奥之番
同　臨時御褒美願　同
同　手代　同　物書役　三ケ年目御褒美願　同
御畳手代御褒美願　同
＊四通　一〆＊
御鳥方不時御褒美願　＊鷹之出精＊
同　＊雪白鴛鴦＊
同　＊野鴛鴦＊
＊三通　一〆＊

小普請方臨時御褒美願　奥之番
▲45　＊五十三間御馬場地築足御模様替、大奥一ノ御殿吹御手水鉢
掛上水樋其外御普請＊
小普請奉行より之願　一通
＊右伺九日迄不残正覚江下ル＊
▲44　奥之番
▲45　＊五十三間并
大奥御修復
小普請方御褒
美
十二月十日相済＊
▲46
○十二月四日　左之通手調之方　八通　正覚認差出ス
＊折懸見出し＊
伺
＊見出し＊
伺
時服二充　田村備後守
内藤宮少輔（内脱カ）
右者御場御用骨折相勤候付

被下之
奥嶋　一反　田村備後守
縮緬　三反　充　柳沢修理亮
右者御弓場初其外　上覧物之節々前後
御用向取扱候ニ付被下之
時服二　内藤宮内少輔
右者御小納戸元掛相勤候ニ付
被下之
奥嶋　一反充　永井佐渡守
塩谷中務少輔
右者人参取扱候ニ付被下之
奥嶋　一反　永井佐渡守
誂織丹後嶋二疋代　充　柳沢修理亮
白縮織二疋
右者御薬園掛相勤候ニ付被下之
誂織丹後嶋弐疋代り　永井佐渡守
並巾八丈嶋二疋　充　田沢兵庫頭
右者於吹上砂糖製作御用取扱候ニ付
被下之
時服二充　田村兵庫頭（沢カ）
東條肥後守
右者吹上御用骨折相勤候ニ付被下之
金一枚充　田村兵庫頭（沢カ）
東條肥後守
右者吹上御入用向引請取扱減等彼是骨折
候ニ付被下之
右之通可被下置哉
十二月
伺　永井佐渡守
岡村隠岐守初
八人名前
時服二充
右者都而御膳所向御締（取脱カ）宜行届候ニ付
被下之
誂織丹後嶋一疋代り　永井佐渡守
横麻一疋ツヽ　岡村隠岐守初
右御御（ママ）製薬■り骨折候ニ付　介迄十人名前
被下之
縮緬　五巻　永井佐渡守
右者御膳番元掛相勤候ニ付被下之
縮緬　三巻充　岡村隠岐守
長谷（屋カ）主膳
右者御膳所向御取締掛出精骨折
相勤候ニ付被下之
右之通可被下置哉

十二月　　中沢主税助
伺
縮緬　三巻充　　岩佐郷蔵
右者出精相勤御取締向御入用向　　坪内舎人
骨折候ニ付被下之　　古山善一郎
右之通可被下置哉　　青山録平
十二月
伺
時服二　　多紀楽春院
右御匙相勤候ニ付被下之
右之通可被下置哉
十二月
伺
金百両　　多紀安良
右者医学館之儀骨折相勤候付
被下之
右之通可被下置哉
十二月
伺
銀十五枚　　小南鉉次郎
右者御鎗術　御稽古之節々骨折相勤候ニ付
被下之
銀七枚　　同人
右者奥向江鎗術致指南、植溜江罷越
骨折候ニ付被下之
右之通可被下置哉
十二月　　老女
＊見出し無之＊
八丈嶋三反充　　七人
＊見出し無之＊
縮緬　三巻　　堀　伊豆守
＊右八通伺済、正覚江下ル
十二月十日＊

▲46　手調

▲47
○十二月四日　左之通六通　御能懸り奥之番友右衛門差出ス
＊見出し＊　　御能掛
御小道具役御能御用取扱候御褒美願　　奥之番
＊見出し＊　　同
奥坊主御能御用相勤候者御褒美願　　同
＊下札後見并御雇之者五六人茂極置、其余者

御免之事＊

＊見出し＊　同

奥坊主御能御用相勤候者師匠届被下願　同

＊業相応ニ而度々御用茂相勤候者者其尽被差置

近来稽古相始候者共　御免之事＊

＊見出し＊　同

御次御能壮(装)束取扱候御手大工御褒美願　同

＊右員数減被下、下札者不認置＊

＊見出し＊　同

奥六尺御楽屋御用相勤候者御褒美願　同

＊六人江百疋ツ、之処、六人江三百疋被下＊　同

同

＊見出し＊　同

御手大工御能御用相勤候者御褒美願　同

＊御能数切ニ付減被下、員数者留不置＊

＊御能掛り友右衛門より例年之通御能御囃子ニ而御褒美願并師匠届願差出候、然ル処御能数も少く、御用も少く候ニ付、被下物勘弁致差出候様達、右書面下ケ候様勘弁書付差出、猶又下ケ札ニ致差出候様達、下ケ札致差出見廻之上伺候処、思召不為在伺相済、正覚江下ル＊

＊但下札之尽正覚江下ル＊

＊但右下札之趣入　御聴置候間、御雇之者

并稽古致候者之取調伺候様達置＊

▲47　＊御能懸＊

▲48

○十二月五日　左之通　御奥懸り

二通　鉄三郎差出

＊見出し＊　御奥御取締掛

御小道具役御奥御取締掛御褒美願　奥之番

＊見出し＊　同

御奥御入用減取調書　同

＊右伺済、正覚江下ル＊

▲48　＊御奥掛り＊

▲49

○十二月五日　左之通　一通　元懸り　兵庫頭より差出ス

＊見出し　本寿院様御匙　岡良允

無之＊　金拾両　右同人

但良允儀当九月より

本寿院様御匙相勤候ニ付、当暮より金拾両

可被下置哉

御部屋様御匙江被下物御先例相知レ不申候得
御在故、方々様御匙江者年々金拾ツ、被下
置候御先格ニ而、高村隆徳儀天保十三寅年
九月より精姫君様御匙同年暮より金拾両
被下置候間、当暮より良允江金拾両被下置
可然哉
十二月　　元掛
＊同人江＊
＊見廻之上正覚江下ケ、差出伺済、十一日ニ下ル＊

▲49　＊元懸り＊

▲50
○十二月六日　三ツ入帳面二冊通物四通一〆外ニ織物書付一通
三ツ入帳面一冊通物三通〆　肥後守より差出
ス
＊三ツ入　臨時之方
帳面＊　支配之者御褒美願　吹上奉行
＊三ツ入　弐ノ方
帳面＊　支配之者御褒美願　吹上奉行
＊見出し＊
河合安三郎江臨時被下物之儀申上候書付
＊見出し＊
吹上織殿之者江被下物之儀申上候書付
＊見出し＊
吹上織殿出役之者江御褒美奉願候書付
＊見出し＊
吹上御鳥方餌拵之者江被下物之儀申上候書付
＊見出し無之＊
去寅年十一月より当卯十月迄織物数書付
＊右一〆＊
＊三ツ入　吹上御庭御掃除向拘御支配之者
帳面＊　三ケ年勤調書付　吹上奉行
＊見出し＊
吹上奉行添奉行江臨時被下物之儀申上候書付
＊見出し＊
吹上御庭御掃除向ニ拘候者
臨時御褒美之儀申上候書付
＊見出し＊
吹上御庭御掃除向拘御支配之者臨時
御褒美之儀奉願候書付　吹上奉行
＊右一〆＊
＊いつれも伺済、正覚江下ル
十二月＊
＊袋　嘉永六丑年より安政二卯年迄人足御入用
入帳＊　定式・臨時内訳増減取調帳　吹上奉行

＊右者見廻之上正覚江下ル＊
＊但仕廻置候旨申聞候＊

▲50 ＊吹上＊

▲51
○十一月十一日
御膳番介迄献上土種物被下伺　正覚認
差出
＊伺済、右書面伺済之旨達、右書面相渡ス
但丹後守殿より五郎左衛門江達＊
＊十二月十三日＊

▲51 ＊御膳＊

○十二月十四日
一金七拾壱両弐分ト銀拾匁
但金壱両ニ付銀六拾目替
銀百枚ト引替
此目四貫三百目
右之通御引替仕度奉存候
十二月
右同断書面　扣共二通
三四郎差出、但馬守殿江差出ス

▲52
○同日
正覚江被下御銀御仕度伺　奥之番
銀二枚　土圭之間
別段銀二枚　肝煎
右之通御支度可仕哉　正覚
十二月　奥之番
＊右者入　御聴、直ニ御支度致候様達下ル、三悦江心得迄達置＊
＊但廿六日以前伺之書面三悦差出、直ニ同人江下ル＊

▲52 奥之番

▲53
○同日
御作事方奥詰之者
臨時御褒美願　奥之番
小細工所詰御作事下奉行吉本与惣左衛門より之
願
右三四郎差出、見廻之上元掛江評議下ル
＊右者不被下方と申聞、書付差出候ニ付、咄合之上入　御聴

書面三四郎江下ケル＊

▲53　臨シ

▲54

○十二月廿日　左之通麁書ニ而御手当書面三四郎差出ス

一金壱両　御側衆折本
御手大工組頭共十三人
一金三分　雑巾洗御手当
一金壱両　御太鼓注進新組
四人
一金壱両　孑子取新組四人
一金壱両　風月亭掛
八人
御庭之者
一金二分ツ、　楓之間掛り
御庭之者　十四人
一金壱両二分　御新座敷掛り
御庭之者　十二人
一金壱両壱分　一ノ御殿御庭掃除
御庭之者　十四人
一金二両二分　五十三間奥締二度分
一金三分ツ、　御慰御箱御手入
御手大工組頭壱人
同介　壱人
同　御手大工拾壱人
一金三分ツ、　御狂言御用
一金二分　早春

＊右者見廻之上直ニ三四郎へ下ル
但例年物ニ付不及見廻候事＊

▲54　御手当願
奥之番
見廻之上
奥之番下ル

▲55

△○十二月廿日　左之通三通鉄三郎差出ス

御休息御庭之者臨時御褒美願　奥之番
御休息御庭之者支配臨時御褒美願　奥之番
元御休息御庭之者支配前役臨時御褒美願　奥之番

＊右見廻之上元懸江下ケ、御褒美之方願通ニ而可然、御手当之方少々減被下方可然申聞候、此度御庭御模様替之儀者格別骨折候儀ニ付、猶又評議致申聞候様宮内少輔申談、下ケ候処、猶又評議仕候処、願通被下候可然旨申聞、書面差出候ニ付、咄合之上伺、伺済正覚江下ル＊

＊十二月廿六日　御褒美不残　折本帳正覚差出＊
＊御用之節持出、御用之間御たんす江御仕廻ニ相成＊
＊但持御供致参り、御仕廻相成、子年之分御下ケ相成
談部屋たんす江入置＊

▲55　＊奥之番＊

△○十二月廿五日　小林栄太郎父布衣被仰付候ニ付栄太郎之儀
＊二十七日＊
両御番江御番替被　仰付、其後奥儒者被　仰付候ニ付、拝領物之儀一同咄合之上元懸り江も勘弁為致候処、拝領物有之、可然申聞候ニ付、伺候処、思召被下候旨被　仰出、正覚江相達ス

△○竹田摂津守当年より　右者年番取扱ニ無之
大判三枚被下　丹後守殿被取扱候事

（半丁白紙）

安政二卯年十二月廿四日

一於談部屋丹波守列座、丹後守申渡之

諏訪安房守　新見内匠頭
竹本長門守　中野讃岐守
松平大膳亮　大久保上野介
水野河内守　糟屋周防守
松平縫殿頭　権太遠江守
高井豊前守　前田対馬守
山名壱岐守　新庄木工頭
本目信濃守　深津市正
永田豊後守　松平采女正
竹本隼人正　内藤大炊頭
糟屋志摩守　田村土佐守
吉川筑後守　依田出雲守
薬師寺甲斐守（備中守カ）　鈴木伯耆守
朝比奈山城守　遠山兵部少輔
永田大学頭　遠山淡路守
諏訪加賀守　松平民部少輔
久留左京亮

奥嶋一反
長崎縮緬一疋
誂織龍門二疋ツ、

右者
御側ニ而常々御用向出精相勤候ニ付以
思召被下之

誂織龍門一疋　菅沼三五郎　誂織　鈴木栄次郎
誂織丹後嶋一疋ツ、　貴志鉄之進　龍門一反ツ、　臼井喜内
右者御鷹据前骨折候ニ付　右者御鷹据前骨
被下之　折ニ付被下之

龍門一疋ツ、　竹本隼人正　中野讃岐守
糟屋志摩守　深津市正

右者御鷹御用出精相勤候ニ付被下之

長崎巾広縮緬一疋　渡辺半八郎　太田伝八郎
誂織龍門一疋　ツ、　大沢主馬　中川勘三郎
丹後嶋一疋　島田武右衛門　中野章之助
美濃部右馬之丞　滝川三九郎
右者
御前御用骨折候ニ付被下之
井上助太夫　能勢龍太郎
長崎　木村武太郎　守山八十郎
縮緬一反ツ　門奈寛之助　堀田式部
石川岩次郎
右者
御前御用骨折候ニ付被下之
宮城釈五郎　吉松庄左衛門（右カ）
龍門一疋ツ、　天野勘次郎
柴村典膳　青山三右衛門
高林弥兵衛
右者御細工物仕骨折候ニ付被下之
白浮
生絹一反　川井弥三郎　織一疋　大久保上野介
右者御細工物仕骨折ニ付被下之　右者御絵御用骨折候
ニ付被下之
朝比奈兵八郎
生絹　新見八郎左衛門

一反充　建部卯之助
服部七五郎
右者御花活取扱骨折候ニ付被下之
龍門一反充　中野讃岐守
右者
御謡御相手仕候ニ付被下之
権太遠江守
生絹　深津市正
一反充　松平采女正
内藤大炊頭
松平民部少輔
右者御謡之節々出精相勤候ニ付被下之
丹後嶋一疋　高井豊前守
右者
御絵御相手仕候ニ付被下之
誂織龍門一疋充　田沢兵庫頭
右者吹上御庭鳥飼付等出精仕
御拳茂有之候ニ付被下之
奥嶋一反　長谷川久助
誂織龍門一疋　充　鈴木多膳
生絹一尺　土方千次郎
田中唯一
右者御植木類取扱日々骨折相勤、御掃

貴志鉄之進
糟屋周防守
久留左京亮
大沢主馬
中川勘三郎
中野章之助
東條肥後守
鳥居織部
野田三郎左衛門
柳生織之助
永井万五郎

除等世話致し、出精相勤候ニ付被下之

諏訪安房守　奥津甚左衛門　菅沼三五郎　臼井喜内
竹本長門守　入江清兵衛　溝口孫四郎　井上助太夫
松平大膳亮　建部卯之助　天野勘次郎　山名鎌五郎
水野河内守　近藤七郎右衛門　稲生庄五郎　大岡孫左衛門
松平縫殿頭　秋山兵三郎　志村鉄太郎
高井豊前守　菅沼三五郎　貴志鉄之進
山名壱岐守　溝口孫四郎
本目信濃守　天野勘次郎
永田豊後守　稲生庄五郎
竹本隼人正　志村鉄太郎
糟屋志摩守　貴志鉄之丞（進カ）
吉川筑後守　荒尾平八郎
新見内匠頭　渡辺栄五郎
中野讃岐守　佐々木三蔵
大久保上野介　臼井喜内
糟屋周防守　井上助太夫
依田出雲守　山名鎌五郎
中山藤一郎　大岡孫右衛門

龍門一疋ツ、

右者雪白鴛鴦掛骨折相勤候ニ付

被下之

近藤七郎左（右カ）衛門　荒尾平八郎
秋山兵三郎　渡辺栄五郎

右者雪白鴛鴦雛飼立、骨折相勤候ニ付

被下之

龍門一疋　土岐藤兵衛

右者御錦魚子飼立、骨折相勤候ニ付

被下之

土岐藤兵衛　高林弥兵衛
柴村典膳
石川左内
森山与一郎

右者御新座敷御掃除等骨折候ニ付

被下之

生絹一反充

二　十二月

一於談部屋丹波守列座、丹後守申

渡之

誂織巾広縮緬一疋　東條肥後守　曲渕左門
誂織丹後嶋一疋　ツ、　依田平左衛門　尾島友右衛門

右者奥向御貸附金取扱御用多之中

出精相勤候ニ付被下之

三　十二月

一於談部屋丹波守列座、丹後守申渡之

曲渕左門　芝山左兵衛佐

龍門　尾島友右衛門

一反充　長谷川久助　春田四郎五郎

新井源八郎

右者御能御囃子之節々出精骨折

相勤候ニ付被下之

四　十二月

一於談部屋丹波守列座、丹後守申渡之

木村弾正忠　大沢主馬

丹後嶋　建部卯之助

一反ツヽ　小笠原十右衛門　石川左内

大久保甚四郎

右者御的被遊候節々出精相勤并御弓

具取扱候ニ付被下之

五　十二月

一於談部屋丹波守列座、丹後守申渡之

金拾両　岡良允

右者

本寿院様御匙相勤候ニ付被下之

一　安政二卯年十二月廿六日

一於大溜丹波守列座、丹後守申渡之

諏訪安房守　朝比奈兵八郎

竹本長門守　新井源八郎

松平大膳亮　荒尾平八郎

水野河内守　村上彦六郎

松平縫殿頭　井出藤馬

高井豊前守　飯塚勘解由

山名壱岐守

本目信濃守

右者御絵番骨折相勤候ニ付被下之

松平大膳亮　永田与左衛門

水野河内守　鈴木栄次郎

松平縫殿頭　加藤源左衛門

本目信濃守　青木寅之助

長崎巾広縮緬　充　中野讃岐守　青山三右衛門

一疋　前田対馬守　横山九十郎

新庄木工頭

中山藤一郎

右者御馬被為

召候節々罷出、骨折相勤候ニ付被下之

生絹四疋　松平大膳亮

右者御馬被為

召候節々早出居残相勤候ニ付被下之
生絹一疋　田沢兵庫頭
右者御馬被為
召候節々早出居残相勤候ニ付被下之
大羅紗一間半　松平大膳亮
右者御馬御相手重立相勤、御馬為
召候節格別骨折候ニ付被下之
誂織縮緬二反　松平大膳亮
右者　御乗馬御時刻ニ寄夜ニ入退出
茂有之、近年御度数多、格別骨
折候ニ付別段被下之
龍門一疋　常巾八丈嶋一反　高井豊前守
丹後嶋一反代
右者御鎗術
御稽古之節々骨折相勤候ニ付被下之
新見内匠頭　青山三右衛門
権太遠江守
龍門一疋充　内藤大炊頭　川井弥三郎
松平民部少輔
山名鎌五郎　守山八十郎
木村武太郎
右者御鎗術
御稽古之節々骨折相勤候ニ付被下之

龍門一疋
丹後嶋一反代　塩谷中務少輔
常巾八丈嶋一反
右者御剱術
御稽古之節々骨折相勤候ニ付被下之
新見内匠頭　大沢主馬
中野讃岐守　鳥居織部
大久保上野介　中野章之助
小出助四郎
右者御剱術
御稽古之節々骨折相勤候ニ付被下之
縮緬三貫　竹田伊豆守
右者白牛酪御製薬御用多之中
取扱別而骨折候ニ付被下之
永井佐渡守　荻原近江守
岡村隠岐守
山木五郎左衛門　松平健之助
奥嶋一反充　岩本大隅守
福村理太夫　鈴木伊兵衛
長屋主膳
小出助四郎
須田多宮
右者献上物取扱方宜格別御急ニ

相成候ニ付被下之
黄紬二反代　村越只次郎　高林弥兵衛
縮緬二反　土岐藤兵衛
丹後嶋一疋代　柴村典膳　石川左内
常巾八丈一疋
右者御飼鳥取扱日々骨折ニ付被下之
丹後嶋一疋　丹後嶋一反代　村越只次郎
常巾八丈一疋
右者御飼鳥御入用取扱御減も相立候
ニ付被下之
十二月
一於笹之間上之間丹波守列座、丹後守
申渡之
時服二充　田村備後守　内藤宮内少輔
右者御場御用骨折候ニ付被下之
奥嶋一反　充　田村備後守　柳沢修理亮
縮緬三反
右者御弓場始其外
上覧物之節々、前後御用向取扱候ニ付
被下之
時服二充　内藤宮内少輔　田沢兵庫頭
右者御小納戸元掛相勤候ニ付被下之

金二枚　竹田伊豆守
時服二
右者牧場筋御用出精相勤、在勤も
仕候ニ付被下之
金三枚　竹田伊豆守
右者牧場江年々罷越、御取締茂
宜、野馬代金も相増、格別骨折
御小納戸江御備金茂差出候ニ付、以
思召右品被下之
誂織縮緬二疋　田村備後守
縮緬　二反
右者御厩向御取締出精相勤候ニ付
被下之
誂織縮緬二疋　田沢兵庫頭
右者御厩向御取締当八月より相勤候ニ付
被下之
大羅紗三間　田沢兵庫頭
右者当八月より
御召御馬御下タ乗并撰方様方
四ケ所御厩江罷越、骨折相勤候ニ付被下之
奥嶋一反ツヽ　永井佐渡守　塩谷中務少輔
右者人参取扱候ニ付被下之
奥嶋一反

誂織丹後嶋一反　永井佐渡守　柳沢修理亮
代　白浮織二疋
右者御薬園掛相勤候ニ付被下之
誂織丹後嶋二疋　永井佐渡守　田沢兵庫頭
代並巾八丈嶋二疋
右者於吹上砂糖製作御用取扱候
ニ付被下之
時服二充　田沢兵庫頭　東條肥後守
右者吹上御用骨折相勤候ニ付被下之
金一枚ツ、　田沢兵庫頭　東條肥後守
右者吹上御入用向引請取扱等彼
是骨折候ニ付被下之
永井佐渡守　小出助四郎
岡村隠岐守
時服二充　山木五郎左衛門　須田多宮
岩本大隅守
福村理太夫　荻原近江守
長屋主膳
右者都而御膳所向御取締宜行届候
ニ付被下之
縮緬五巻　永井佐渡守
右者御膳番元掛相勤候ニ付被下之
縮緬三巻ツ、　岡村隠岐守　長屋主膳

右者御膳所向御取締出精骨折候ニ付
相勤候ニ付被下之
奥嶋一反誂織　松平健之助　鈴木伊兵衛
縮緬一疋同龍門一疋ツ、
右者御膳番介相勤候ニ付被下之
永井佐渡守　荻原近江守
岡村隠岐守
山木五郎左衛門　松平健之助
誂織丹後嶋一疋　岩本大隅守
福村理太夫　鈴木伊兵衛
代　横麻一疋
長屋主膳
小出助四郎
須田多宮
右者御製薬掛骨折相勤候ニ付被下之
誂織丹後嶋一疋　永井佐渡守　小出助四郎
岡村隠岐守　須田多宮
代　横麻一疋ツ、
山木五郎左衛門　荻原近江守
岩本大隅守　松平健之助
福村理太夫　鈴木伊兵衛
長屋主膳
右者　方々様御製薬御用取扱候ニ付
被下之
誂織縮緬一疋　内藤宮内少輔

右者鮮鯛代金取扱候ニ付被下之
龍門一疋充　東條肥後守　依田平左衛門
右者鮮鯛代金取扱候ニ付被下之
長崎
巾広縮緬二疋　東條肥後守　角南栄之允
右者御立本御用骨折相勤候付被下之
長崎
巾広縮緬一疋ツ、　東條肥後守　佐野鉄三郎
右者御奥御取締出精相勤候ニ付被下之
木村弾正忠　村越只次郎
朝倉勘四郎
縮緬三巻充　朝比奈兵八郎　服部七五郎
新見八郎左衛門
野間与五左衛門　野々山鉦蔵
右者御小納戸肝煎相勤、格別出精
相勤候ニ付被下之
弁柄一反代　木村弾正忠　大沢主馬
生絹二疋　建部卯之助
誂織龍門一疋　小笠原十右衛門　石川左内
丹後嶋一疋　ツ、　大久保(甚カ)勘四郎
右者御弓場始其外
上覧物之節々前後御用向取扱候ニ付被下之
中沢主税助　古山善一郎

縮緬三巻充　岩佐郷蔵
坪内舎人
右者出精相勤御取締向御入用向骨
折候ニ付被下之
時服二　青山録平
右者　御匙相勤候ニ付被下之
八丈縞二反　多紀楽春院
右者　御匙見習相勤候ニ付被下之
金百両　辻元為春院
右者医学館之儀骨折相勤候ニ付
被下之　多紀安良
銀二枚
右者御薬差上候ニ付被下之　土生玄昌
銀拾五枚
右者御膏薬其外御薬差上候ニ付
被下之　村山自伯
銀五枚
右者御食薬御用意薬差上候ニ付
被下之　佐藤道安
銀五枚
右者　方々様江御食薬差上候ニ付
被下之　佐藤道安
銀弐拾枚　本康宗達

右者　方々様江御食薬差上候ニ付
被下之
　銀拾枚　渋江元亮
右者御薬園御用向骨折相勤候ニ付
被下之
　銀五枚　渋江元順
右者御薬園御用向父元亮同様骨
折相勤候ニ付被下之
長崎縮緬二反代
　誂織巾広縮緬二疋　渋江元亮
右者綿羊飼立方益出精相勤
候ニ付被下之
　長崎縮めん一反代
　誂織巾広縮緬一疋　渋江元順
右者綿羊飼立方益出精相勤候ニ付
被下之
　銀二拾枚充　狩野菫川　狩野永徳
　狩野勝川　狩野探原
右者例年之通被下之
　曲直瀬養安院　高村隆円
　高麗春沢
　銀拾枚充　中川隆玄　野間玄琢
右者御製薬所江相詰、御薬種取扱
骨折候ニ付被下之
　銀五枚　岡良篤
右者御製薬所江相詰、御薬種取扱
骨折候ニ付被下之
　縮緬二巻　曲直瀬養安院
右者御製薬所之儀ニ付重立取扱
骨折候ニ付被下之
　曲直瀬養安院　高村隆円
　高麗春沢　野間玄琢
沙綾二巻ツヽ
　中川隆玄
右者　方々様御製薬御用骨折候ニ付
被下之
　沙綾一巻　岡良篤
右者　方々様御製薬御用骨折候ニ付
被下之
　御召　大膳亮好庵
　御羽織一
右者以　思召被下之
＊是より御鋪居之外＊
　銀五枚　成嶋甲子太郎
右者御次ニ而講釈仕候ニ付被下之
　銀三枚　成嶋甲子太郎
右者御書物御風干御用骨折相勤候

ニ付被下之
銀拾五枚　小南鉉次郎
右者御鎗術
御稽古之節々骨折相勤候ニ付被下之
銀七枚　小南鉉次郎
右者奥向江鎗術致指南、植溜江
罷越、骨折候ニ付被下之
銀三枚　和多田金七郎
右者御庭御用骨折相勤候ニ付被下之
銀壱枚　和多田金七郎
右者西丸御休息并大奥向御庭
御手入其外御用相勤候ニ付被下之
銀壱枚　和多田金七郎
右者山里御庭江罷越、御手入其外
御用相勤候ニ付被下之
十二月
一於銅火之間北廊下、同人申渡之
銀五枚充　村松静之助　都筑藤右衛門
曲木仙之助
右者御馬御用骨折相勤候ニ付被下之
銀七枚充　鶴見七左衛門　大武藤助
右者御馬御用骨折相勤候ニ付被下之
銀三枚　渡辺半十郎

右者御馬御用骨折相勤候ニ付被下之
銀拾枚　住吉内記
右者御絵御用相勤候ニ付被下之
銀拾枚　板谷桂舟
右者御絵御用相勤候ニ付被下之
十二月
一於奥新部屋同人申渡之
書付相渡之　御広敷御用人
右者支配向江御褒美被下之
書付相渡之　諏訪部弥三郎
右者支配向江御褒美被下之、村松静之助・
鶴見七左衛門・曲木仙之助支配之者江も御褒美
被下之、御中間組頭御馬率人江御褒美被下之
書付相渡之　御膳所御台所頭
右者支配向江御褒美被下之
銀五枚　木村又助
右者浜御庭　御成之節、御取建其外
御用向骨折相勤候ニ付被下之
丹後嶋一疋代　木村又助
白浮織一疋
右者浜御庭汐浜御用取扱骨折ニ付
被下之
巾広縮緬一疋　木村又助

右者浜御庭織殿御用取扱骨折候ニ付
被下之　木村又助
銀五枚
右者浜御庭御薬園御薬草手入方宜
御入用も相減、出精骨折相勤候ニ付被下之
銀拾枚充　木村又助　河合安三郎
右者人参掛御用向骨折相勤候ニ付
被下之　金子鉉次郎
銀三枚
右者人参掛助御用向当八月より
骨折相勤候ニ付被下之
銀五枚　木村又助　河合安三郎
右者甘薯并砂糖製作御用骨
折候ニ付被下之
誂織縮緬二反充　河合安三郎　金子鉉次郎
右者吹上御庭向御掃除御手入等格
別出精骨折候ニ付被下之
長崎巾広縮緬一反　河合安三郎
右者吹上御庭ニ而御金魚飼立被
仰付候処数多出来
御慰ニ茂相成候ニ付被下之
銀弐枚　中田甚三郎
右者奥御鷹御用其外御用之節々
罷出、骨折相勤候ニ付被下之
銀三枚　中田甚三郎
右者当夏御鷹吹上ニ而御塒飼被
仰付、骨折候ニ付被下之
銀三枚充　岡田利左衛門　岡田源三郎　芥川小野寺
右者
御進献御薬種其外御薬種御用取扱
候ニ付被下之
銀一枚　岡田利左衛門　芥川小野寺
右者近年糸瓜水御用追々相増候処、
度々差出、御用弁宜、彼是骨折候ニ付
被下之
小普請方
銀五枚　鈴木分左衛門
右者御庭掛上水其外御用向相勤候
ニ付被下之
小普請方改役
銀三枚　中島悌之進
右者御庭掛上水其外御用向相勤候
ニ付被下之
御作事下奉行
銀五枚　吉本与惣左衛門

右者奥詰相勤候ニ付被下之

御作事下奉行格
御膳所組頭
田中彦七

銀弐枚

右者御膳所向急御用弁宜出精
相勤候ニ付被下之

銀壱枚　中山栄次郎

右者御鷹当春仕込夜据馴ケ吹上
御庭江詰切骨折相勤候ニ付被下之

銀弐枚　中田助太郎

右者御鷹当秋仕込夜据馴ケ吹上
御庭江詰切骨折相勤候ニ付被下之

二

安政二卯年十二月廿六日

一於談部屋丹波守列座、丹後守申渡之

木村弾正忠　野間与五右衛門
長崎縮緬一疋　朝倉勘四郎　村越只次郎
黄紬一疋代　充　朝比奈兵八郎　服部七五郎
縮緬一反　新見八郎左衛門　野々山鉦蔵

右者上向御蝋燭取扱御次向御取締無
油断相勤候ニ付被下之

二　十二月

一於笹之間丹波守・左近将監列座丹後守
申渡之

＊溜御入側＊
時服二
銀五枚　小林栄太郎

右者
御前江度々罷出、御用向骨折相勤候ニ付
被下之

銀五枚　小林栄太郎

右者御次ニ而講釈仕候ニ付被下之

銀三枚　小林栄太郎

右者御書物御風干御用骨折相勤候ニ付
被下之

安政二卯年十二月廿四日

一於六畳鋪前丹後守申渡之

縮緬三巻　柳生対馬守

右者植溜江罷出、奥向釼術稽古指
南仕候ニ付、御内々被下之

書付相渡　柳生対馬守

右者家来拝領物被　仰付之

安政二卯年十二月廿六日

談部屋申渡之覚

御嶋台掛
御用部屋

金弐百疋　　本間意格

右者諸大名より献上之御嶋台被進
被下等相成候ニ付、取調方骨折候ニ付
被下之

同
同
良賀
介　友意
甫俊

金弐百疋充

右者諸大名より献上之御嶋台被進
被下等ニ相成候ニ付、取調方骨折候ニ付
被下之

十二月

▲56　伺　　御調掛り

銀弐枚　　正覚

右者御内証御褒美調掛り相勤候
ニ付被下之
右之通可被下置哉

▲56　＊此書面廿六日ニ三悦より
差出、不伯及丹後守江
差出ス＊

＊但別段申渡之書面者不差出ス＊
＊別段銀三枚被下候得此書面ニ者書載ニ無之
談部屋ニ而申渡＊

（八行分白紙）

安政三辰年正月

正月十一日

＊折　卯年

懸ケ＊　御金御勘定書　一通

大判　七拾枚
小判　一万三千両
銀　千百枚

右者当正月より十二月迄御小納戸為御用請取申候

安政二卯年十二月

東條肥後守
依田平左衛門
曲渕左門
小嶋（尾カ）友右衛門
神田求馬
佐野鉄三郎
岡三四郎
福井小十郎

右書面三四郎差出、見廻之上伊勢守殿江差出ス
但御足し金之儀者不申出候旨申聞候、丹後守殿より伊勢守殿江咄シ置候由

○正月十五日　左之書面御弓懸り大久保甚四郎差出ス

＊折懸ケ＊

御弓一式御入用調　　御弓懸

惣〆銀七貫三百六拾五匁二分五厘八毛

金直シ　金百二十二両三分ト二分七厘八毛

米五斗八升

＊右一同見廻之上右同人江下ル＊

三月十四日　左之書付次郎右衛門より可差出候処、小十郎差出ス

来巳年可納分

御年貢

一上黄紬　五百七拾反五分

桑葉代

一同　弐拾八反

御役紬

▲57 一同　八拾壱反

井関次郎右衛門

両かゝ美代　拾壱反

一同

椿実代

一同　五反二分五五厘（ママ）

山手役

一同　壱反

切替畑成

一同　弐分六厘九毛

山畑御年貢

一同　四反七分

一右同断

同　二反四分五厘六毛

一見取畑御年貢

同　一反

一開発場冥加

同　七反

辰

三月

＊見出シ＊

八丈帯織黄紬之儀申上候書付　奥之番

一八丈帯織　当時御有高

三拾四反

去卯年御注文

当辰年着船可仕分
一同　〆四拾九反　拾五反
右之内
御召御用
一同　五反
当辰年被為　進被下高凡
一同　六反
但被為　進被下高共去々寅年去卯年凡ニ而御座候
〆拾壱反
差引残而
三拾八反
一黄紬　当時御有高
百三拾反
去卯年御注文
当辰年着船可仕分
一同　百四反
〆弐百三拾四反
右之内ニ而
御召御用
一同　弐拾五反
当辰年被為　進被下高凡
一同　六拾三反
但被為　進被下高共去々寅年去卯年凡ニ而御座候

〆八拾八反
差引残而　百四拾六反
辰
三月　奥之番
＊見出シ＊
八丈合糸織之儀申上候書付　奥之番
一八丈合糸織　当時御有高
百八拾反
去卯年御注文
当辰年着船可仕分
一同　二百四拾反
〆四百二拾反
右之内ニ而当辰年御注文　御召御用
一同　八拾七反
当辰年被為　進被下高凡
一同　百五拾八反
但被為　進被下高共去々寅年去卯年凡ニ而御座候
〆二百四拾五反
差引　残而
百七拾五反
辰
三月　奥之番
＊折懸ケ　去卯年

見出シ＊　御注文　御召物御入用調書
不時
去卯年
御注文　御召物御入用
不時
御注文
金千九百九拾七両壱分弐朱、銀三匁三分六厘四毛
不時
金七百九拾六両壱分、銀壱匁七厘九毛
外御糸代
金弐百九拾六両三分弐朱、銀六匁壱分九厘
御注文・不時
二口〆金弐千七百九拾三両弐分二朱、銀四匁四分
四厘三毛
弐千八百両之内差引
金六両壱分、銀三匁五厘七毛　相減申候
右之通御座候
辰三月
去卯年
＊折懸ケ＊　別廉不時御入用調書
＊見出シ＊
去卯年
別廉御入用

一金百三拾七両弐分、銀五匁六分五厘四毛
内
拾ケ年目不時　御老中方若年寄衆御側衆被下御入用
金百弐拾四両弐分、銀五匁五分九厘三毛
御老中方夏被下御入用
金拾三両、銀六厘壱毛
右之通御座候
辰三月
＊右書面五通見廻し之上小十郎江下ル＊
▲57　下札
内ニ而
百四反御注文申出ス
残而
六百反余
但黄紬五反ニ而合罷越
壱反之積
合百二十一反
右之処江二百四十反
御注文申出候
候得者
御誂百拾九反

○三月十五日　八丈御誂書　扣共二通　次郎右衛門引ニ付小十郎差出

八丈織御誂書　奥之番

八丈織御注文

一八丈合糸織　弐百四拾反

一八丈帯織　拾五反

一黄紬　百四反

右者来巳年御注文御納戸江被仰付可被下候、以上

辰三月　奥之番

＊右見廻之上越中守殿江出ス＊

＊見出し　扣之方＊

八丈織御誂之儀申上候書付　奥之番

一八丈合糸織　弐百四拾反

内　百弐拾壱反　御年貢

百拾九反　御誂

一八丈帯織　拾五反

一黄紬　百四反

右八丈織之儀、来巳年都合三百

五拾九反御誂申付度奉存候、以上

辰三月　奥之番

○三月廿八日　左之袋入帳面一冊　次郎右衛門引ニ付小十郎差出

安政三辰三月

夏冬　御召物御注文書　奥之番

＊右見廻之上同人江下ル＊

○五月廿六日　常々袋入帳面　御膳番多宮差出

二丸御製薬所　小出助四郎

諸御入用御勘定帳　須田多宮

卯年正月より十二月迄

御製薬所御入用　金百両

銀拾枚　但目方四百三拾目

内訳　略ス

右之通向々江相渡申候

惣〆　壱ケ年御払高　一金百三十八両

一銀六拾目六厘八毛

残銀二百六十九匁九分三厘二毛

金ニ直シ五両一分銀七匁一分五厘九毛

但時相場両替六十九匁一分

内金三十二両二分銀七匁八分四厘六毛

御不足ニ付御払薬種代金より御足シ仕候

辰五月　小出助四郎

須田多宮

＊右見廻之上奥之番江下ル、七月九日三四郎より差出、正覚江渡、椴箱へ出ル

右奥之番より差出候節、御勘定書差出ス、跡へ認置＊

○六月十九日　左之袋入帳面　奥之番　三四郎差出ス

＊袋上書＊

御入用調書　奥之番

＊帳面上書同断＊

正月より十二月迄　被為　進　被下　臨時　定式

壱ケ年御入用　三千三百九十八両壱分二朱　銀五匁七分四厘

右之外御金帳御遣払高

金壱万千四百八十二両三分三朱

去々寅年小細工方諸式割増

金三十二両一分二朱　銀四匁九分

銀百枚引替

金七拾一両二分　銀拾匁

合而

金壱万四千九百八拾五両三朱

去卯年御小納戸金請取高

大判　七十枚

金　壱万三千両

銀　千百枚

御用立大判　二十九枚

御遣残大判　四十壱枚

金請取高御用立与差引

御不足金千九百八十五両三朱

御遣残大判　四十壱枚

但大判御払壱枚ニ付　金二十六両之積

合而金千六十六両

地震ニ付別請取候御金御遣残　金拾両

右大判御払代金并地震ニ付別請取

御金差加差引　全御不足

金九百九両三朱

右御残御用意金より御足金仕候

銀御用立高　銀千二百三十一枚与拾八匁二分九厘

銀請取高御用立高与差引御不足　銀百三十一枚与拾八匁二分九厘

内　百枚　御納戸より引替請取

銀三十一枚与拾八匁二分九厘

右御残御用意銀より御足銀仕候

＊右見廻之上正覚江申付、椴鎰前附箱へ入置、六月廿一日去々寅年御入用より去卯年之四百五十九両余減＊

○七月九日 左之御勘定書三四郎差出

卯年

二丸御製薬所御入用金銀御勘定書　壱通

金　百両

銀　拾枚

右者当卯正月より十二月迄二丸御製薬所為御入用請取申候

安政二卯年十二月　東條肥後守初九人名前

＊右三四郎差出、見廻之上御勝手懸月番伊勢守殿江差出ス＊

※丁数１１０丁　前後表紙有

法量　１８５㎜×１２３㎜

「年番取扱覚」登場人物一覧

凡　例

・本表は、以下に掲げる参考史料を元に作成した。役職欄の（　）内は、参考に供した史料名である。また、参考までに本史料内での肩書きなどもわかる範囲で併せて記載した。
・本表は、本史料中における史料表記を基準にし、あいうえお順に並べている。史料中で「朝比奈甲斐守」「甲斐守」など、複数の表記がある場合には、「→朝比奈甲斐守」などと示すことで、参照先を示した。
・役職については、以下に掲げる安政二年出雲寺版『大成武鑑』を主とし、他の史料で補完した。また、人名については同『武鑑』・『柳営補任』などでわかる範囲で確認し、他の史料で補完した。なお、全ての人名・役職を網羅しているわけではない。
・本表の作成は小宮山敏和（学習院中等科非常勤講師/徳川林政史研究所研究生）が行った。

参考文献

熊井保・大賀妙子編『江戸幕臣人名事典』１～４巻、新人物往来社、1989－1990
「嘉永七寅年八月改　大奥女中分限帳并剃髪女中名前」（埼玉県立文書館所蔵『稲生家文書』）
朝幕研究会編『人文叢書１　近世朝廷人名要覧』、学習院大学人文科学研究所、2005
黒板勝美・国史大系編修会編『尊卑分脈』58～60巻下、別巻２、吉川弘文館、1966－1967
斎木一馬・岩沢愿彦校訂『徳川諸家系譜』１～４巻、続群書類従完成会、1970－1984
竹内誠編『徳川幕府事典』東京堂出版、2003
「安政二年刊　出雲寺萬次郎版　大成武鑑　東京大学史料編纂所所蔵」（深井雅海・藤實久美子編『江戸幕府役職武鑑編年集成』30巻、東洋書林、1998）
東京大学史料編纂所編『大日本近世史料　柳営補任』１～６巻、東京大学出版会、1983

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
青木寅之助	青木義比	御小納戸（武鑑36丁目）
青山三右衛門	青山長賢	御櫛番（本史料）、御小納戸（武鑑36丁目）
青山録平	青山禄平	御広敷御用人（武鑑74丁目）
安芸守	本庄道貫	若年寄（武鑑３丁目）
秋山兵三郎	秋山兵三郎	御小納戸（武鑑34丁目）
芥川小野寺	芥川良春	小石川御薬園奉行見習（武鑑90丁目）
朝倉勘四郎	朝倉俊徳	小納戸肝煎（本史料）、御小納戸（武鑑34丁目）
朝比奈甲斐守	朝比奈昌寿	御小納戸頭取（武鑑33丁目）
朝比奈兵八郎	朝比奈兵八郎	御小納戸（武鑑33丁目）、小納戸肝煎（本史料）
朝比奈山城守	朝比奈昌広	御小姓衆（武鑑29丁目）
飛鳥井	飛鳥井	家定付上臈御年寄（嘉永七年大奥女中分限帳）
天野勘次郎	天野勘次郎	御小納戸（武鑑34丁目）
新井源八郎	新井邦	御小納戸（武鑑34丁目）
荒尾平八郎	荒尾成憲	御小納戸（武鑑34丁目）
有栖川宮	幟仁親王	中務卿（近世朝廷人名要覧）
飯塚勘解由	飯塚忠徳	御小納戸（武鑑38丁目）
意格	本間意格	御嶋台掛坊主、御嶋台掛御用部屋（本史料）、御同朋格御用部屋御坊主（武鑑又92丁目）
伊賀守	松平忠優	老中（武鑑２丁目）
生田	生田	精姫君様附（本史料）
石川岩次郎	石川岩次郎	御小納戸（武鑑36丁目）
石川左内	石川成章	御小納戸（武鑑38丁目）

「安政二卯年 年番取扱覚」

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
石河土佐守	石河政平	勘定奉行（本史料、武鑑17丁目）
伊豆守	森川俊朝	御側衆（武鑑５丁目）
和泉守	松平乗全	老中（武鑑１丁目）
井関次(治)郎右衛門	井関親賢	御小納戸（武鑑38丁目）、年番奥之番　御召物、奥之番介（本史料）
伊勢守	阿部正弘	老中（武鑑１丁目）
磯山	磯山	溶姫君様附（本史料）
板谷桂舟	板谷桂舟	御絵師（武鑑114丁目）
一斎	栗原一斎	御手水方介ヵ（本史料）、奥御坊主（武鑑91丁目）
井出藤馬	井出正仲	御小納戸（武鑑38丁目）
稲垣三次郎	稲垣三次郎	勘定役格御手大工世話役並（本史料）
因幡守	岡部長富	御側衆（武鑑４丁目）
井上助太夫	井上助太夫	御小納戸（武鑑35丁目）
稲生庄五郎	稲生庄五郎	御小納戸（武鑑34丁目）
入江清兵衛	入江清兵衛	御小納戸（武鑑33丁目）
岩岡(岩園)	岩岡	家定付御年寄（嘉永七年大奥女中分限帳）
岩佐郷蔵	岩佐郷蔵	御広敷御用人（武鑑74丁目）
石見守	平岡頼啓	御小姓組御番頭格御用御取次見習（武鑑16丁目）
岩本大隅守	岩本正遠	御小納戸（武鑑34丁目）
右京亮	酒井忠毗	若年寄（武鑑３丁目）
臼井喜内	臼井喜内	御小納戸（武鑑35丁目）
歌橋	歌橋	家定付上臈御年寄（嘉永七年大奥女中分限帳）
内山七兵衛	内山俊永	御鷹匠頭（武鑑又49ノ１丁目）
裏町	裏町	末姫君様附（本史料）
栄久	志村栄久	御鑰番（本史料）、奥御坊主（武鑑91丁目）
栄太郎		→小林栄太郎
江川太郎左衛門	江川英敏	韮山代官（武鑑111丁目）
越中守	本多忠徳	若年寄（武鑑３丁目）
江原下総守	江原親長	御普請奉行（武鑑25丁目）
円清	長坂円清	御召方（本史料）、奥御坊主（武鑑91丁目）
大岡孫右衛門	大岡孫右衛門	御小納戸（武鑑36丁目）
大久保上野介	大久保忠邦	御小姓衆（武鑑29丁目）
大久保甚(勘)四郎	大久保忠富	御小納戸（武鑑37丁目）、御弓懸り（本史料）
大沢主馬	大沢信宝	御小納戸（武鑑36丁目）
大武藤助	大武藤助	御馬預（武鑑85丁目）
太田元禮	太田元禮	法眼・奥医師（武鑑70丁目）
太田伝八郎	太田伝八郎	御小納戸（武鑑38丁目）
小笠原十右衛門	小笠原広業	御小納戸（武鑑35丁目）

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
岡三四郎	岡孝和	御小納戸（武鑑36丁目）、年番奥之番　御金・奥之番介（本史料）
岡田利左衛門	岡田利左衛門	小石川御薬園奉行（武鑑90丁目）
岡野	岡野	表使（本史料、嘉永七年大奥女中分限帳）
岡村隠岐守	岡村隠岐守	御小納戸（武鑑33丁目）
岡良允	岡良允	本寿院様御匙（本史料）・法眼・奥御医師（武鑑70丁目）
小川玄達	小川玄達	法眼・奥医師（武鑑70丁目）
奥津甚左衛門	興津房相	御小納戸（武鑑34丁目）
荻原近江守	荻原直方	御膳番（本史料）、御小納戸（武鑑37丁目）
尾(小)嶋(島)友右衛門	尾嶋信子	奥之番・御能懸り奥之番（本史料）、御小納戸（武鑑37丁目）
織部正	菅沼盈志	御側衆（武鑑５丁目）
甲斐守		→朝比奈甲斐守
角南栄之允	角南栄之允	御小納戸（武鑑38丁目）
糟屋志摩守	糟屋志摩守	御小姓衆（武鑑29丁目）
糟屋周防守	糟屋正徳	御小姓衆（武鑑29丁目）
加藤源左衛門	加藤源左衛門	御小納戸（武鑑35丁目）
金子鉉(鉄)次郎	金子鉉次郎	吹上御花畑奉行両御番格見習（武鑑89丁目）
狩野永徳	狩野永徳立信	御医師並御絵師（武鑑114丁目）
狩野薫川	狩野薫川中信	御医師並御絵師（武鑑114丁目）
狩野勝川	狩野雅信	御絵師・御医師並・中務法眼（武鑑114丁目）
狩野探原	狩野探原守経	御医師並御絵師（武鑑114丁目）
川井弥三郎	川井弥三郎	御小納戸（武鑑38丁目）
河合安三郎	河合安三郎	吹上御花畑奉行見習（武鑑89丁目）
川村助次郎	川村助次郎	御休息御庭之者支配（武鑑90丁目）
願生院	願生院	文恭院様元表使（本史料）
神田求馬	神田将純	奥之番（本史料）、御小納戸（武鑑37丁目）
寛量院	徳川(清水)斉明	家斉子、清水家を継ぐ（徳川幕府事典）
紀伊守	内藤信親	老中（武鑑２丁目）
貴志鉄之進	貴志鉄之進	御小納戸（武鑑34丁目）
吉川筑後守	吉川筑後守	御小姓衆（武鑑29丁目）
木村武太郎	木村武太郎	御小納戸（武鑑36丁目）
木村弾正(忠)	木村弾正忠	御小納戸（武鑑34丁目）、小納戸肝煎（本史料）
木村又助	木村又助	浜御殿奉行（武鑑89丁目）
久栄		→高橋久栄
久珉	森谷久珉	御召方定介（本史料）、奥御坊主（武鑑92丁目）
行智院	行智院	貞惇院様御附比丘尼（本史料）
宮内少輔		→内藤宮内少輔

「安政二卯年 年番取扱覚」

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
粂岡	粂岡	松栄院様附（本史料）
倉橋	倉橋	松栄院様附（本史料）
久留左京亮	久留左京亮	御小姓衆（武鑑29丁目）
傾斎	佐久間傾斎	御手水方介（本史料）、奥御坊主（武鑑又92丁目）
桂林	粟田口桂林	御絵番（本史料）、奥御坊主（武鑑92丁目）
桂林院	桂林院	貞惇院様御附比丘尼（本史料）
源僖	徳川斉温	家斉子、尾張徳川斉朝養子（徳川幕府事典）
賢寿院	賢寿院	天親院様元御年寄（本史料）
玄順	青山玄順	奥御坊主組頭（武鑑91丁目）、御嶋台掛坊主（本史料）
見性院	見性院	源僖様御附元御年寄（本史料）
健之助		→松平健之助
玄亮		→渋江玄亮
小出助四郎	小出英資	御小納戸（武鑑36丁目）
広大院	寔子･篤姫･茂姫	家斉正室・島津重豪女・近衛経熙養女（徳川幕府事典）
小十郎		→福井小十郎
小林栄太郎	小林栄太郎	奥儒者（武鑑69丁目）（本史料）
駒井	駒井	精姫君様御借人・表使（本史料）
高麗春沢	高麗春沢	奥詰御医師（武鑑71丁目）
小南鉉次郎	小南鉉次郎	奥勤大御番格（武鑑90丁目）
五郎左衛門		→山木五郎左衛門
権太遠江守	権太遠江守	御櫛番（本史料）、御小姓（武鑑29丁目）
近藤七郎右(左)衛門	近藤七郎右衛門	御小納戸（武鑑34丁目）
昨■(夏ヵ)	昨■(夏ヵ)	文恭院様御附元呉服之間（本史料）
桜嶋	桜嶋	線姫君様附（本史料）
左近将監	夏目信明	御側御用取次（武鑑４丁目）
佐々木三蔵	佐々木三蔵	御小納戸（武鑑35丁目）
佐渡守		→永井佐渡守
讃岐守		→中野讃岐守
佐野鉄(銀)三郎	佐野政美	奥之番・御奥懸り（本史料）、御小納戸（武鑑36丁目）
左門		→曲渕左門
三栄	石橋三栄	御手水方（本史料）、奥御坊主（武鑑91丁目）
三悦	大竹三悦	肝煎御坊主衆（武鑑又92丁目）
三四郎		→岡三四郎
塩谷中務少輔	塩谷正路	御小納戸頭取（武鑑33丁目）
七蔵	七蔵	奥六尺組頭・西丸奥六尺（本史料）
辻本為春院	辻本為春院	奥御医師･法印（武鑑70丁目）、御匙見習（本史料）

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
篠崎三哲	篠崎三哲	法眼・奥医師（武鑑70丁目）
柴田元春	柴田元春	法眼・奥医師（武鑑70丁目）
芝山左兵衛佐	芝山直寛	御小納戸（武鑑37丁目）
渋江元順	渋江元順	奥詰医師（武鑑71丁目）
渋江元亮	渋江元亮	奥詰医師（武鑑71丁目）
自分	蜷川親室	御小姓組御番頭格御用御取次見習（武鑑16丁目）
島田武右衛門	島田盛美	御小納戸（武鑑37丁目）
志村鉄太郎	志村斧太郎	御小納戸（武鑑34丁目）
紫村典膳	柴村盛厚	御小納戸（武鑑37丁目）
修理亮		→柳沢修理亮
俊意	深瀬俊意	御小道具役格御手水方（本史料）、御小道具役格御坊主（武鑑91丁目）
俊佐	井上俊佐	御小道具役格御鳥方・御小道具役格御鳥方御取締（本史料）、御小道具役格御坊主（武鑑92丁目）
秋清院	秋清院	天親院様元御年寄（本史料）
松栄院	浅姫	家斉女、松平斉承室（徳川幕府事典）
正覚(格)	吉田正覚	肝煎御坊主衆（武鑑又92丁目）、土圭之間肝煎（本史料）
貞惇院	和姫	家斉女、毛利斉広室（徳川幕府事典）
新庄木工頭	新庄直敬	御小姓衆（武鑑29丁目）
新見内匠頭	新見正長	御小姓衆（武鑑29丁目）
新見八郎左衛門	新見八郎左衛門	御小納戸（武鑑34丁目）、小納戸肝煎（本史料）
末姫君	末姫	家斉女、浅野斉粛室（徳川幕府事典）
周防守		→糟谷周防守
菅沼三五郎	菅沼三五郎	御小納戸（武鑑34丁目）
須川	須川	松栄院様附（本史料）
杉枝仙庵	杉枝仙庵	法眼・御鍼科（武鑑70丁目）
鈴木伊兵衛	鈴木伊兵衛	御小納戸（武鑑33丁目）
鈴木栄次郎	鈴木栄次郎	御小納戸（武鑑35丁目）
鈴木多膳	鈴木多膳	御小納戸（武鑑35丁目）
鈴木分左衛門	鈴木分左衛門	小普請方（本史料、武鑑25丁目）
鈴木伯耆守	鈴木伯耆守	御小姓衆（武鑑29丁目）
須田多宮	須田盛庸	御膳番（本史料）、御小納戸（武鑑38丁目）
住吉内記	住吉内記	御絵師（武鑑114丁目）
須山	須山	溶姫君様附（本史料）
駿河守	大久保忠誨	御側衆（武鑑５丁目）
諏訪安房守	諏訪安房守	御小姓頭取（本史料、武鑑28丁目）
諏訪加賀守	諏訪加賀守	御小姓衆（武鑑29丁目）
諏訪部弥三郎	諏訪部弥三郎	御馬預（江戸幕臣人名事典「諏訪部鎮次郎」の項）

「安政二卯年 年番取扱覚」

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
晴光院	喜代姫	家斉女、酒井忠学室（徳川幕府事典）
誠順院	永姫	家斉女、徳川（一橋）斉位室（徳川幕府事典）
清湛院	淑姫	家斉女、徳川斉朝室（徳川幕府事典）
清知	倉嶋清知	御小道具役（本史料））、奥御小道具役御坊主（武鑑91丁目）
精姫君	精姫君	家慶養女・有栖川宮韶仁親王女・有馬頼咸室（徳川幕府事典）
清兵衛	清兵衛	御弓・御鉄砲兼役定介（本史料）
清朴	佐藤清朴	元書役ヵ（本史料）、奥御坊主（武鑑92丁目）
摂津守		→竹田摂津守
善意	彦根善意	御絵番（本史料）、奥御坊主（武鑑91丁目）
染学院	染学院	霊鏡院様御附比丘尼（本史料）
仙寿院	仙寿院	寛量院様御附比丘尼（本史料）
善十郎		→深尾善十郎
線姫君	線姫君	家慶養女・有栖川宮幟仁親王女・徳川慶篤室（徳川幕府事典）
宗賀	今西宗賀	御小道具役・御錠口掛（本史料）、奥御小道具役御坊主（武鑑91丁目）
園村	園村	晴光院様附（本史料）
大膳亮好庵	大膳亮好庵	西丸奥御医師（本史料）、法眼・奥御医師（武鑑70丁目）
大内記	駒木根政暁	御側衆（武鑑４丁目）
高井豊前守	高井豊前守	御小姓頭取（本史料、武鑑28丁目）
高丘	高丘	線姫君様附（本史料）
高倉	高倉	精姫君様附（本史料）
高辻	高辻	上臈年寄（本史料）、御本丸詰上臈年寄（嘉永七年大奥女中分限帳）
高橋(島村)久栄	高橋久栄	御同朋格奥坊主組頭（本史料、武鑑91丁目）
高林(村)弥兵衛	高林利栄	御小納戸（本史料、武鑑37丁目）
高村隆円	高村隆円	奥詰医師（武鑑71丁目）
高村隆徳	高村隆徳	精姫君様御匙（天保十三年九月より、本史料）
多紀安良	多紀安良	法眼・奥御医師（武鑑70丁目）
多紀楽春院	多紀楽春院	奥御医師・法印（武鑑70丁目）、御匙（本史料）
滝川三九郎	滝川三九郎	御小納戸（武鑑38丁目）
瀧園	瀧園	晴光院様附（本史料）
竹田伊豆守	竹田甚五郎	御小納戸（武鑑38丁目）
竹田摂津守	竹田斯綏	御小納戸頭取（武鑑33丁目）
建部卯之助	建部卯之助	御小納戸（武鑑34丁目）
竹本長門守	竹本長門守	御小姓頭取（本史料、武鑑28丁目）
竹本隼人正	竹本隼人正	御小姓衆（武鑑29丁目）

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
田沢(村)兵庫頭	田沢正路	奥之番（本史料）、御小納戸頭取（武鑑33丁目）
但馬守	遠藤胤統	勝手方若年寄（武鑑３丁目）
只次郎		→村越只次郎
田付主計	田付直愛	御鉄砲方（武鑑又49ノ７丁目）
田中彦七	田中彦七	御作事下奉行格御膳所組頭（本史料）、御膳所御台所組頭（武鑑88丁目）
田中唯一	田中唯一	御小納戸（武鑑35丁目）
田村土佐守	田村土佐守	御小姓衆（武鑑29丁目）
田村備後守	田村直簾	御小納戸頭取（武鑑33丁目）
丹後守	本郷泰固	御側御用取次（武鑑３丁目）
丹波守	鳥居忠挙	若年寄（武鑑２丁目）
丹波守	平岡道弘	御側御用取次（武鑑４丁目）
知願院	知願院	清湛院様御附比丘尼（本史料）
智厳	智厳	貞惇院様御附比丘尼（本史料）
長右衛門	長右衛門	奥六尺組頭（本史料）
都筑藤右衛門	都筑藤右衛門	御馬方（武鑑86丁目）
坪内舎人	坪内定辟	御広敷御用人（武鑑74丁目）
鶴見七左衛門	鶴見七左衛門	御馬預（武鑑85丁目）
貞伯	高橋貞伯	奥御坊主組頭（武鑑91丁目）、御用部屋坊主（本史料）
鉄三郎		→佐野鉄三郎
出羽守	森川俊民	若年寄（武鑑３丁目）
天親院	有姫･任子	鷹司政熙女、鷹司政通養女、家定室（徳川幕府事典）
道俊	野嶋道俊	御湯殿方（本史料）、奥御坊主（武鑑91丁目）
東條肥後守	東條肥後守祐吉	奥之番（本史料）、御小納戸（武鑑34丁目）
遠山淡路守	遠山直温	御小姓衆（武鑑29丁目）
遠山兵部少輔	遠山兵部少輔	御小姓衆（武鑑29丁目）
土岐藤兵衛	土岐頼房	御小納戸（武鑑37丁目）
戸田嘉十郎	戸田正意	御納戸頭（武鑑又49ノ９丁目）
戸田久助	戸田勝喬	御鷹匠頭（武鑑又49ノ１丁目）
戸田正助	戸田勝行	御鷹匠頭（武鑑又49ノ１丁目）
友右衛門		→尾嶋友右衛門
鳥居織部	鳥居忠郁	御小納戸（武鑑37丁目）
内藤大炊頭	内藤正信	御小姓衆（武鑑29丁目）
内藤宮内少輔	内藤矩正	御小納戸頭取（武鑑33丁目）、御場懸り（本史料）
永井佐渡守	永井佐渡守	御小納戸頭取（武鑑33丁目）
永井万五郎	永井万五郎	御小納戸（武鑑38丁目）
中川勘三郎	中川忠道	御小納戸（武鑑38丁目）

「安政二卯年 年番取扱覚」

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
中川隆玄	中川隆玄	奥詰医師（武鑑71丁目）
中沢主税助	中沢主税助	御広敷御用人（武鑑74丁目）
中島悌之進	中島悌之進	小普請方改役（本史料、武鑑25丁目）
中田甚三郎	中田甚三郎	御鷹匠（武鑑又49ノ２丁目）
中田助太郎	中田助太郎	御鷹匠（武鑑49丁目ノ２）
永田大学頭	永田大学頭	御小姓衆（武鑑29丁目）
永田豊後守	永田豊後守	御小姓衆（武鑑29丁目）
永田与左衛門	永田正寅	御小納戸（武鑑34丁目）
中務少輔		→塩谷中務少輔
中野讃岐守	中野清賢	御小姓衆（武鑑29丁目）
中野章之助	尚之助	御小納戸（武鑑38丁目）
長屋(谷)主膳	長屋景福	御小納戸（武鑑36丁目）
中山栄次郎	中山栄次郎	御鷹匠ヵ（武鑑49丁目ノ１）
中山藤一郎	中山藤一郎	御小納戸（武鑑34丁目）
成嶋(嶌)甲子太郎	成嶋甲子太郎	奥儒者（武鑑69丁目）
能勢龍太郎	能勢龍太郎	御小納戸（武鑑38丁目）
野田三郎左衛門	野田守兼	御小納戸（武鑑37丁目）
能登守	渡辺輝綱	御側衆（武鑑４丁目）
野々山鉦蔵	野々山兼寛	御小納戸（武鑑37丁目）、小納戸肝煎（本史料）
野間玄琢	野間玄琢	奥詰医師・二丸御製薬所掛（江戸幕臣人名事典）
野間与五左衛門	野間与五左衛門	小納戸肝煎（本史料）、御小納戸（武鑑34丁目）
野間摺庵	野間摺庵	奥詰医師（武鑑71丁目）
長谷川久助	長谷川九助	御小納戸（武鑑34丁目）
服部七五郎	服部七五郎	御小納戸（武鑑34丁目）、小納戸肝煎（本史料）
土生玄昌	土生玄昌	法眼・御眼科（武鑑71丁目）
浜岡	浜岡	家定付御年寄（嘉永七年大奥女中分限帳）
播磨守	太田資芳	御側衆（武鑑４丁目）
春田四郎五郎	春日久文	御小納戸（武鑑37丁目）
半太郎	半太郎	御休息御庭之者（本史料）
肥後守		→東條肥後守
土方千次郎	土方千次郎	御小納戸（武鑑35丁目）
備前守	牧野忠雅	老中（武鑑１丁目）
兵庫頭		→田沢兵庫頭
備後守		→田村備後守
深尾善十郎	深尾善十郎	御納戸頭（武鑑又49ノ９丁目）
深津市正	深津市正	御櫛番（本史料）、御小姓（武鑑29丁目）
福井小十郎	福井正常	御櫛番・奥之番過人（本史料）、御小納戸（武鑑37丁目）
複円	長坂福円	書役（本史料）、奥御坊主（武鑑92丁目）

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
福村理太夫	福村正広	御小納戸（武鑑33丁目）
藤尾	藤尾	御錠口（本史料、嘉永七年大奥女中分限帳）
藤岡	藤岡	線姫君様附（本史料）
藤沢	藤沢	晴光院様附（本史料）
豊前守		→高井豊前守
古山善一郎	古山善一郎	御広敷御用人（武鑑74丁目）
文恭院	徳川家斉	十一代将軍（徳川幕府事典）
平左衛門		→依田平左衛門
甫俊	中嶋甫俊	御嶋台掛御用部屋坊主介（本史料）、御用部屋御坊主（武鑑又92丁目）
堀田式部	堀田式部	御小納戸（武鑑38丁目）
堀伊豆守	堀利賢	大目付（武鑑17丁目）
本寿院	おみつ・堅子	家慶妾・家定生母・跡部茂右衛門正賢女（徳川幕府事典）
本正院	本正院	貞惇院様御附比丘尼（本史料）
本目信濃守	本目親民	御小姓頭取介（本史料）、御小性（武鑑29丁目）
前田対馬守	前田対馬守	御小姓衆（武鑑29丁目）
曲木仙之助	曲木仙之助	御馬預（武鑑85丁目）
曲渕左門	曲渕左門	奥之番（本史料）、御小納戸（武鑑36丁目）
益五郎	益五郎	奥六尺組頭（本史料）
増田	増田	末姫君様附（本史料）
松平采女正	松平乗弼	御小姓衆（武鑑29丁目）
松平健之助	松平正路	御膳番（本史料）、御小納戸（武鑑37丁目）
松平大膳亮	松平乗長	御小姓頭取（本史料、武鑑28丁目）
松平縫殿頭	松平勝定	御小姓頭取（本史料、武鑑28丁目）
松平民部少輔	松平乗鄰	御小姓衆（武鑑30丁目）
万里小路	万里小路	家定付上臈御年寄（嘉永七年大奥女中分限帳）
曲直瀬養安院	曲直瀬養安院	奥詰御医師（武鑑71丁目）
美賀君	和子	今出川公久女、一条忠香養女、一橋慶喜室（徳川諸家系譜）
水野河内守	水野忠豊	御小姓頭取（本史料、武鑑28丁目）
溝口孫四郎	溝口孫四郎	御小納戸（武鑑34丁目）
美濃守	石河貞大	御側衆（武鑑５丁目）
美濃部右馬之允	美濃部栄貞	御櫛番（本史料）、御小納戸（武鑑38丁目）
三保沢	三保沢	末姫君様附（本史料）
宮城釈五郎	宮城政矩	御小納戸（武鑑34丁目）
妙勝定院宮	宣子	有栖川宮韶仁親王御息所・閑院宮美仁親王女（尊卑分脈）
妙成	妙成	西丸元御右筆（本史料）
村上彦六郎	村上義比	御小納戸（武鑑37丁目）

「安政二卯年 年番取扱覚」

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
村越只次郎	村越成章	御櫛番・御鳥懸り・小納戸肝煎（本史料）、御小納戸（武鑑36丁目）
村松静之助	村松静之助	御馬預（武鑑85丁目）
村山自伯	村山自伯	法眼・奥御外科（武鑑70丁目）
茂次郎	茂次郎	御手大工組頭介（本史料）
本(元)康宗達	本康宗達	御口科・法眼（武鑑71丁目）
守山八十郎	守山八十郎	御櫛番（本史料）、御小納戸（武鑑38丁目）
森山与一郎	森山盛哉	御小納戸（武鑑36丁目）
主水正	竹本正懋	御側御用取次（武鑑３丁目）
門奈寛之助	門奈寛之助	御小納戸（武鑑36丁目）
屋尾	屋尾	御簾中様御附小上臈格（本史料）、元小上臈隠居女中ヵ（嘉永七年大奥女中分限帳）
八百村	八百村	精姫君様附（本史料）
柳生織之助	柳生久徳	御小納戸（武鑑36丁目）
柳生対馬守	柳生俊順	御詰並（武鑑８丁目）
薬師寺甲斐守	薬師寺甲斐守	御小姓衆（武鑑29丁目）
柳沢修理亮	柳沢正信	御小納戸頭取（武鑑33丁目）
山木五郎左衛門	山木五郎左衛門	御小納戸（武鑑33丁目）
山崎宗安	山崎宗安	法眼・御鍼科（武鑑71丁目）
大和守	久世広周	老中（武鑑２丁目）
山名壱岐守	山名壱岐守	御小姓頭取介（本史料）、御小性（武鑑29丁目）
山名鎌五郎	山名鎌五郎	御小納戸（武鑑36丁目）
唯一		→田中唯一
友意	小林友意	御嶋台掛御用部屋（本史料））、組頭格御用部屋御坊主（武鑑又92丁目）
融相院	融相院	天親院様元御年寄（本史料）
友珉	吉田友珉	奥御坊主組頭（武鑑91丁目）
溶姫君	溶姫	家斉女、前田斉泰室（徳川幕府事典）
横山九十郎	横山一路	御小納戸（武鑑37丁目）
吉松庄左衛門	吉松正保	御小納戸（武鑑37丁目）
吉本与惣右衛門	吉本与惣左衛門	（小細工所詰）御作事下奉行（本史料）、（武鑑23丁目）
依田出雲守	依田出雲守	御小姓衆（武鑑29丁目）
依田平左衛門	依田政保	御小納戸（武鑑34丁目）、奥之番（本史料）
良賀	黒尾良賀	（御嶋台掛）御用部屋坊主（本史料）、組頭格御用部屋御坊主（武鑑又92丁目）
林茂	山本林茂	奥坊主組頭格土圭間肝煎（本史料）、肝煎御坊主衆（武鑑又92丁目）
霊鑑寺宮	宗諄入道女王	門主、上皇養子、伏見貞敬親王女（近世朝廷人名要覧）

人物（史料表記）	人物名	役職等（典拠）
霊鏡院	文姫	家斉女、松平頼胤室（徳川幕府事典）
若倉	若倉	溶姫君様附（本史料）
若狭守	小笠原信名	御側衆（武鑑４丁目）
和多田金七郎	和多田金七郎	御休息御庭之者支配（武鑑90丁目）
渡辺栄五郎	渡辺栄五郎	御小納戸（武鑑35丁目）
渡辺半十郎	渡辺半十郎	御馬方（武鑑86丁目）
渡辺半八郎	渡辺半八郎	御小納戸（武鑑35丁目）
綿貫夏右衛門	綿貫夏右衛門	野馬奉行